

平成 30 年度
松山市 市民意識調査
報 告 書
(概要版)

平成 31 年 3 月



松 山 市

目次

I	調査概要	2
1.	調査目的	2
2.	調査方法	2
(1)	調査項目	2
(2)	調査対象・方法	2
3.	回収結果	3
4.	集計方法	3
5.	注意事項	3
II	調査結果	4
1.	回答者について	4
(1)	性別	4
(2)	年齢	4
(3)	職業	5
(4)	居住地域	6
(5)	家族構成	7
(6)	居住年数	8
2.	松山市での暮らしについて	9
(1)	松山市のどのようなところを「住みやすい」と感じるか	9
(2)	松山市のどのようなところを「住みにくい」と感じるか	11
(3)	松山市は住みやすいまちか	13
(4)	松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じるか	14
(5)	松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じにくいか	16
(6)	松山市に愛着や誇りを感じるか	18
(7)	今後も松山市に住み続けたいか	19
3.	SDGs(エスディーゼズ)について	20
(1)	SDGsについて知っているか	20
(2)	身近でSDGsに取り組んでいる事例を知っているか	21
4.	人口減少社会を迎えて重点的に取り組むべき事項について	22
(1)	少子化対策	22
(2)	移住定住対策	24
(3)	地域経済の活性化	26
(4)	暮らしを守る	28
5.	市の取り組んでいる施策の満足度・重要度について	30
(1)	健康・福祉に関する施策	30
(2)	安全・安心に関する施策	31
(3)	産業・交流に関する施策	32
(4)	教育・文化に関する施策	33
(5)	環境・都市に関する施策	34
(6)	自治・行政に関する施策	35
III	調査分析	36
1.	満足度・重要度	36
2.	施策の優先度について	38
3.	重要度及び満足度、優先度の関係	39

I 調査概要

1. 調査目的

第6次松山市総合計画に掲げた各施策に対する市民の重要度、満足度、優先度等を把握するため、市民に対して意識調査を実施し、計画的かつ効率的な進行管理を図るための基礎資料とする。

2. 調査方法

(1) 調査項目

1. 回答者について

(1) 性別 (2) 年齢 (3) 職業 (4) 居住地域 (5) 家族構成 (6) 居住年数

2. 松山市での暮らしについて

(1) 松山市のどのようなところを「住みやすい」と感じるか

(2) 松山市のどのようなところを「住みにくい」と感じるか

(3) 松山市は住みやすいまちか

(4) 松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じるか

(5) 松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じにくいか

(6) 松山市に愛着や誇りを感じるか

(7) 今後も松山市に住み続けたいか

3. SDGsについて

(1) SDGsについて知っているか

(2) 身近でSDGsに取り組んでいる事例を知っているか

4. 人口減少社会を迎えて重点的に取り組むべき事項について

(1) 少子化対策

(2) 移住定住対策

(3) 地域経済の活性化

(4) 暮らしを守る

5. 市の取り組んでいる施策の満足度・重要度について

(1) 健康・福祉に関する施策 (2) 安全・安心に関する施策 (3) 産業・交流に関する施策

(4) 教育・文化に関する施策 (5) 環境・都市に関する施策 (6) 自治・行政に関する施策

6. 施策の優先度について

(2) 調査対象・方法

1. 調査対象

2019年1月1日現在（無作為抽出）

①性別：男女計2,000人

②年齢：18歳以上の市民

③地域：松山市全域（集計・分析は公民館ブロックの地区ごと）

2. 調査方法

郵送調査

3. 調査期間

2019年2月1日～2月22日

3. 回収結果

	発送件数	有効回答件数	有効回答率
全体	2,000	1,119	56.0%

4. 集計方法

項目	内容																		
性別集計	男性、女性ごとに集計。																		
年齢別集計	20歳代以下（18～29歳）、30歳代（30～39歳）、40歳代（40～49歳）、50歳代（50～59歳）、60歳代（60～69歳）、70歳以上の6区分で集計。																		
地域別	<p>・41居住地を、8公民館ブロックに集約。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ブロック</th> <th>公民館区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1ブロック</td> <td>1. 湯山 2. 日浦 3. 五明 4. 伊台</td> </tr> <tr> <td>第2ブロック</td> <td>5. 久米 6. 小野 7. 石井 8. 浮穴 9. 荏原 10. 坂本</td> </tr> <tr> <td>第3ブロック</td> <td>11. 八坂 12. 素鷲 13. 道後 14. 東雲 15. 番町 16. 桑原</td> </tr> <tr> <td>第4ブロック</td> <td>17. 新玉 18. 雄郡 19. 清水 20. 味酒</td> </tr> <tr> <td>第5ブロック</td> <td>21. 生石 22. 余土 23. 垣生 24. 味生</td> </tr> <tr> <td>第6ブロック</td> <td>25. 三津浜 26. 宮前 27. 高浜 28. 泊 29. 由良 30. 中島</td> </tr> <tr> <td>第7ブロック</td> <td>31. 和気 32. 潮見 33. 堀江 34. 久枝</td> </tr> <tr> <td>第8ブロック</td> <td>35. 浅海 36. 立岩 37. 難波 38. 正岡 39. 北条 40. 河野 41. 粟井</td> </tr> </tbody> </table>	ブロック	公民館区分	第1ブロック	1. 湯山 2. 日浦 3. 五明 4. 伊台	第2ブロック	5. 久米 6. 小野 7. 石井 8. 浮穴 9. 荏原 10. 坂本	第3ブロック	11. 八坂 12. 素鷲 13. 道後 14. 東雲 15. 番町 16. 桑原	第4ブロック	17. 新玉 18. 雄郡 19. 清水 20. 味酒	第5ブロック	21. 生石 22. 余土 23. 垣生 24. 味生	第6ブロック	25. 三津浜 26. 宮前 27. 高浜 28. 泊 29. 由良 30. 中島	第7ブロック	31. 和気 32. 潮見 33. 堀江 34. 久枝	第8ブロック	35. 浅海 36. 立岩 37. 難波 38. 正岡 39. 北条 40. 河野 41. 粟井
ブロック	公民館区分																		
第1ブロック	1. 湯山 2. 日浦 3. 五明 4. 伊台																		
第2ブロック	5. 久米 6. 小野 7. 石井 8. 浮穴 9. 荏原 10. 坂本																		
第3ブロック	11. 八坂 12. 素鷲 13. 道後 14. 東雲 15. 番町 16. 桑原																		
第4ブロック	17. 新玉 18. 雄郡 19. 清水 20. 味酒																		
第5ブロック	21. 生石 22. 余土 23. 垣生 24. 味生																		
第6ブロック	25. 三津浜 26. 宮前 27. 高浜 28. 泊 29. 由良 30. 中島																		
第7ブロック	31. 和気 32. 潮見 33. 堀江 34. 久枝																		
第8ブロック	35. 浅海 36. 立岩 37. 難波 38. 正岡 39. 北条 40. 河野 41. 粟井																		
満足度得点 重要度得点	<p>・第6次松山市総合計画（後期基本計画）の施策ごとの評価。</p> <p>選択肢1「不満、重要でない」から選択肢5「満足、重要」までに、それぞれ1点～5点を与え、加重平均を算出した。選択肢0「判断できない」及び「無回答」のサンプルは集計対象から除外した。</p>																		
優先度	<p>・優先的に取り組むべき施策として選択された項目について集計した。</p>																		
満足度・重要度・優先度の関係	<p>・施策の満足度、重要度を得点に基づき可視化するとともに、優先度が高い施策との相関を示した。</p>																		

5. 注意事項

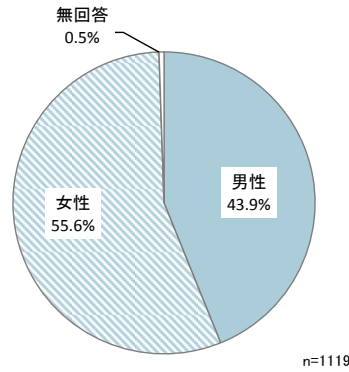
- 図表中の「n」（Number of samples の略）は、設問に対する回答者の総数を示しており、回答者の構成比（%）を算出するための基数です。
- 図表中の構成比（%）は、小数点第2位以下を四捨五入しています。このため、個々の構成比の合計が100.0%にならない場合（99.9%、100.1%など）があります。
- 複数回答の設問は、回答が2つ以上ありうるもので、合計は100%を超えることもあります。
- 各設問の集計は、無回答を含めて集計しています。

Ⅱ 調査結果

1. 回答者について

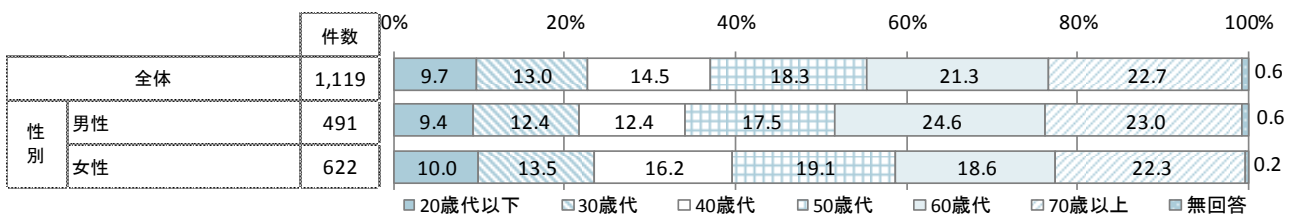
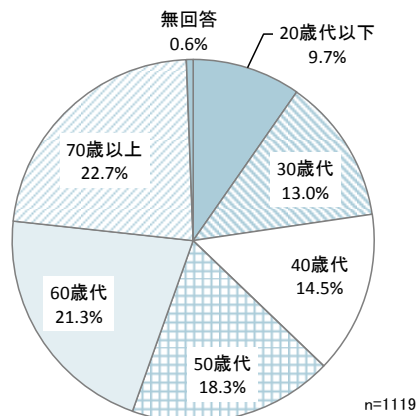
(1) 性別

- ・性別は、「男性」が43.9%、「女性」が55.6%であった。



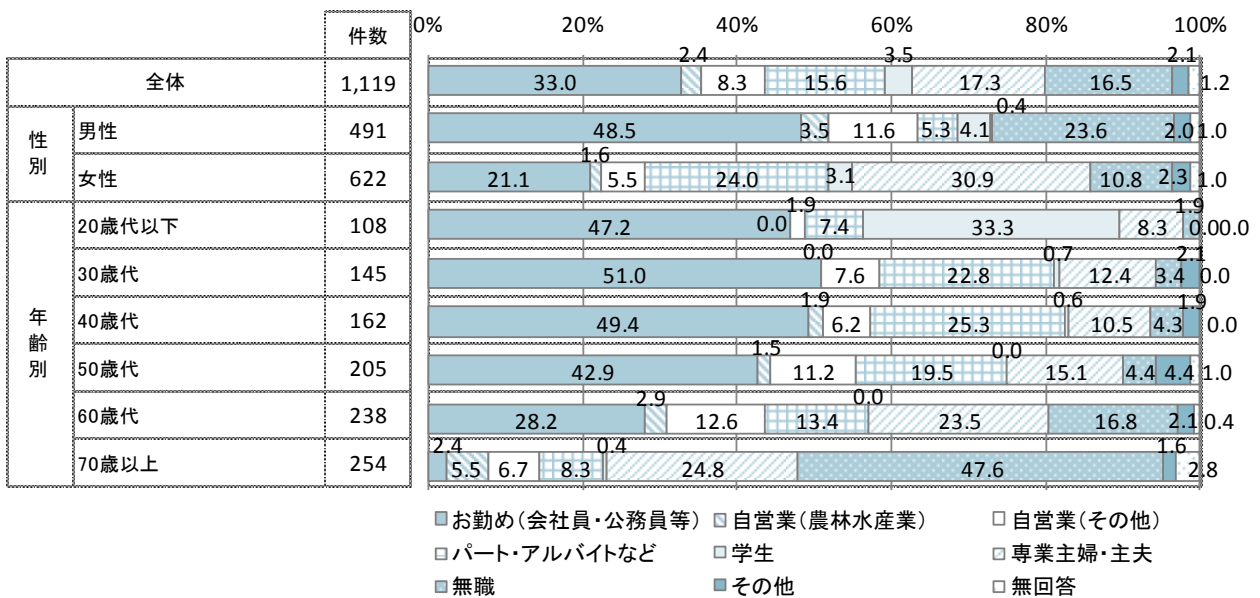
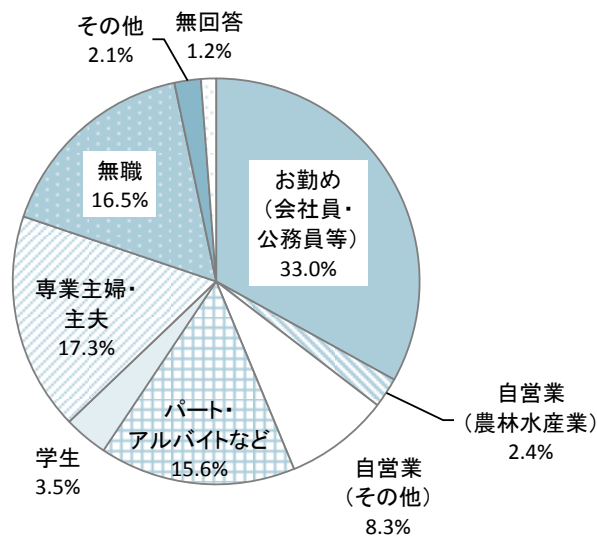
(2) 年齢

- ・全体では、「70歳以上」が22.7%で最も高く、「60歳代」の21.3%、「50歳代」の18.3%が続いた。
- ・性別で見ると、男性では「60歳代」が24.6%で最も高く、次いで「70歳以上」23.0%、「60歳代」17.5%、「40歳代」、「30歳代」がそれぞれ12.4%、「20歳代以下」9.4%であった。女性では「70歳以上」が22.3%で最も高く、次いで「50歳代」19.1%、「60歳代」18.6%、「40歳代」16.2%、「30歳代」13.5%、「20歳代以下」10.0%であった。



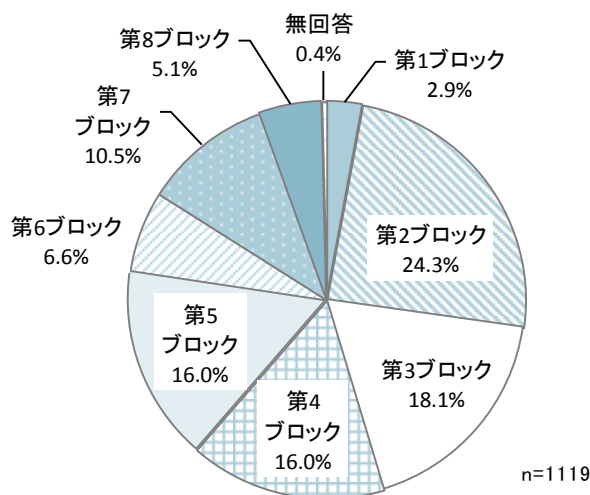
(3) 職業

- ・全体では、「お勤め（会社員・公務員等）」が 33.0%で最も高く、次いで「専業主婦・主夫」の 17.3%、「無職」の 16.5%が続いた。
- ・性別では、男性は「お勤め（会社員・公務員等）」が 48.5%で最も高く、次いで「無職」が 23.6%、「自営業（その他）」が 11.6%と続いた。
女性では「専業主婦・主夫」が 30.9%で最も高く、次いで「パート・アルバイトなど」が 24.0%、「お勤め（会社員・公務員等）」が 21.1%と続いた。
- ・年齢別では、60 歳代以下の年代では「お勤め（会社員・公務員等）」が最も高く、これに次いで 20 歳代以下では「学生」、30 歳代から 60 歳代では「パート・アルバイトなど」と「専業主婦・主夫」の割合が高くなっている。70 歳以上では「無職」が最も高く、次いで「専業主婦・主夫」と続いた。「自営業（農林水産業）」は 60 歳代以上で比較的高くなっている。



(4) 居住地域

- ・全体では、「第2ブロック」の24.3%が最も高く、次いで「第3ブロック」が18.1%、「第4ブロック」、「第5ブロック」が同率の16.0%で続いた。
- ・年齢層をみると、60歳代及び70歳以上の合計割合は「第1ブロック」、「第6ブロック」及び「第8ブロック」で5割を超え、それ以外の地域でも4割前後となっている。20歳代以下及び30歳代の合計割合は、「第5ブロック」の30.7%が最も高く、「第1ブロック」の12.1%が最も低くなっている。40歳代及び50歳代の合計割合は全ての地域で3割前後となっている。

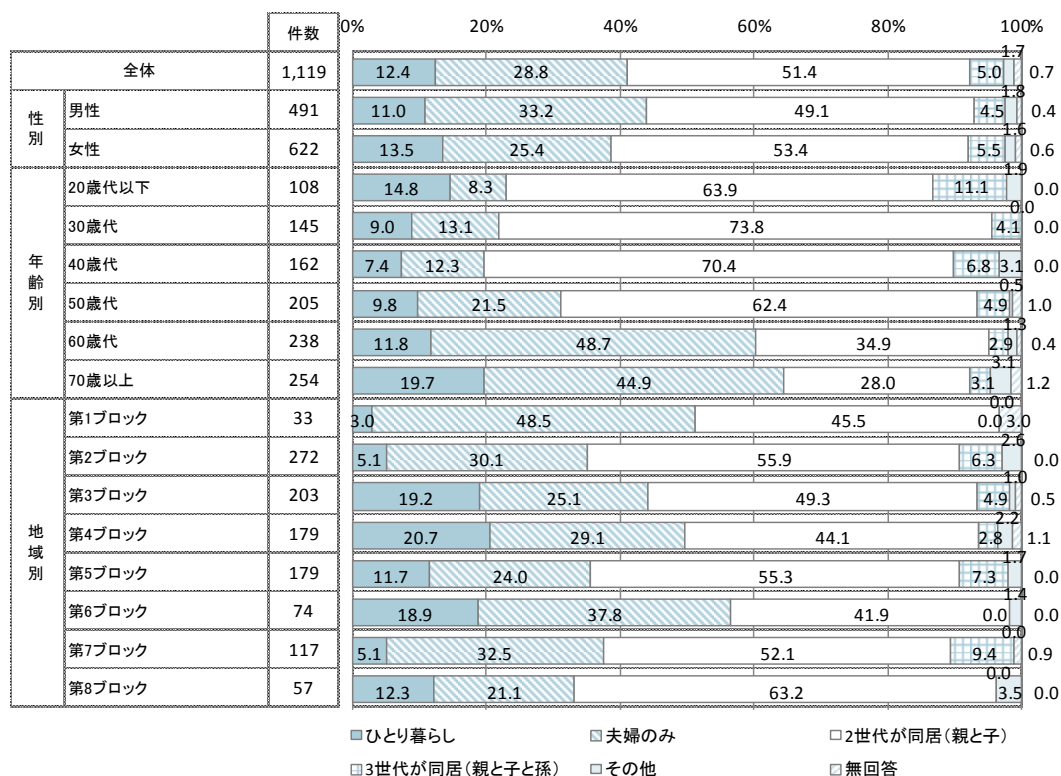
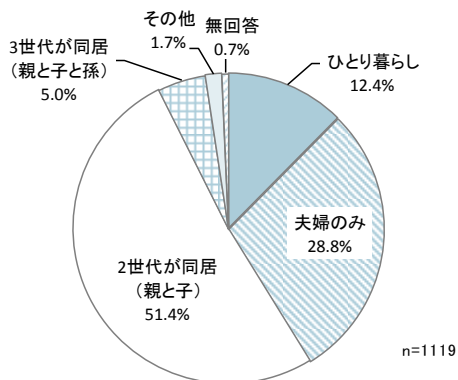


地域別	件数	年齢層						合計
		20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	
第1ブロック	33	9.1	3.0	6.1	21.2	42.4	18.2	0.0
第2ブロック	272	8.5	11.4	15.4	16.2	22.8	25.4	0.4
第3ブロック	203	6.9	13.8	15.3	24.6	18.2	20.2	1.0
第4ブロック	179	13.4	15.1	15.1	19.0	16.8	20.7	0.0
第5ブロック	179	12.8	17.9	16.2	12.3	20.7	19.6	0.6
第6ブロック	74	8.1	10.8	8.1	20.3	21.6	31.1	0.0
第7ブロック	117	10.3	11.1	12.0	18.8	23.1	24.8	0.0
第8ブロック	57	5.3	8.8	17.5	17.5	26.3	24.6	0.0

■ 20歳代以下 ■ 30歳代 □ 40歳代 □ 50歳代 □ 60歳代 □ 70歳以上 ■ 無回答

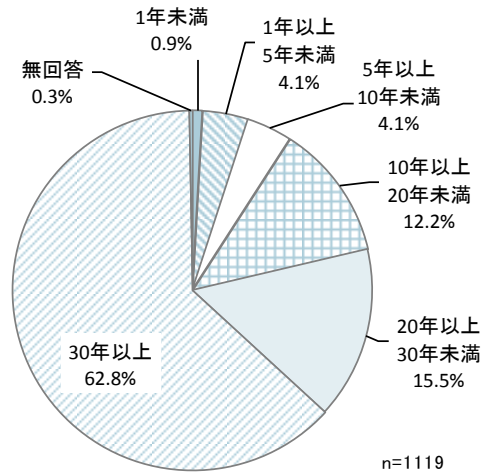
(5) 家族構成

- ・全体では、「2世代が同居（親と子）」が 51.4%で最も高く、「夫婦のみ」の 28.8%、「ひとり暮らし」の 12.4%が続いた。
- ・性別では、男性、女性ともに「2世代が同居（親と子）」が最も高く、「夫婦のみ」「ひとり暮らし」が続いた。
- ・年齢別では、50歳代以下では「2世代が同居（親と子）」がいずれも半数以上を占め、20歳代以下では「ひとり暮らし」、30歳代から50歳代では「夫婦のみ」が続いている。60歳代及び70歳以上では「夫婦のみ」が最も高く、次いで「2世代が同居（親と子）」が続いた。
- ・地域別では、第1ブロックを除いたいずれの地域も「2世代が同居（親と子）」が4割台から6割台で最も高く、「夫婦のみ」が続いた。第1ブロックでは「夫婦のみ」が5割弱で最も高く、「2世代が同居（親と子）」が続いた。



(6) 居住年数

- ・全体では「30年以上」が62.8%と6割を超え、「20年以上30年未満」の15.5%、「10年以上20年未満」の12.2%が続き、「1年以上5年未満」と「5年以上10年未満」がともに4.1%、「1年未満」0.9%の順で続いた。通算20年以上の居住者が78.3%と8割近くを占めている。
- ・地域別では、全ての地域で「30年以上」が5割を超えており、第1ブロック、第6ブロックでは7割を超えている。次いで、第3ブロック、第8ブロックを除いた地域では「20年以上30年未満」、「10年以上20年未満」の順に続き、第3ブロック、第8ブロックでは「10年以上20年未満」、「20年以上30年未満」の順に続いた。第1ブロック、第2ブロック、第5ブロック、第6ブロック及び第7ブロックでは、通算20年以上の居住者が8割を超えている。



地域別	件数	割合 (%)					
		1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上30年未満	30年以上
全体	1,119	0.9	4.1	4.1	12.2	15.5	62.8
第1ブロック	33	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.8
第2ブロック	272	0.4	2.6	3.7	11.4	15.1	66.5
第3ブロック	203	1.5	6.9	6.4	15.8	14.8	54.7
第4ブロック	179	2.2	8.4	6.1	12.8	16.2	54.2
第5ブロック	179	0.6	2.2	3.9	12.3	16.8	64.2
第6ブロック	74	0.0	0.0	0.0	6.8	16.2	77.0
第7ブロック	117	0.9	2.6	3.4	10.3	15.4	67.5
第8ブロック	57	0.0	1.8	3.5	15.8	14.0	64.9

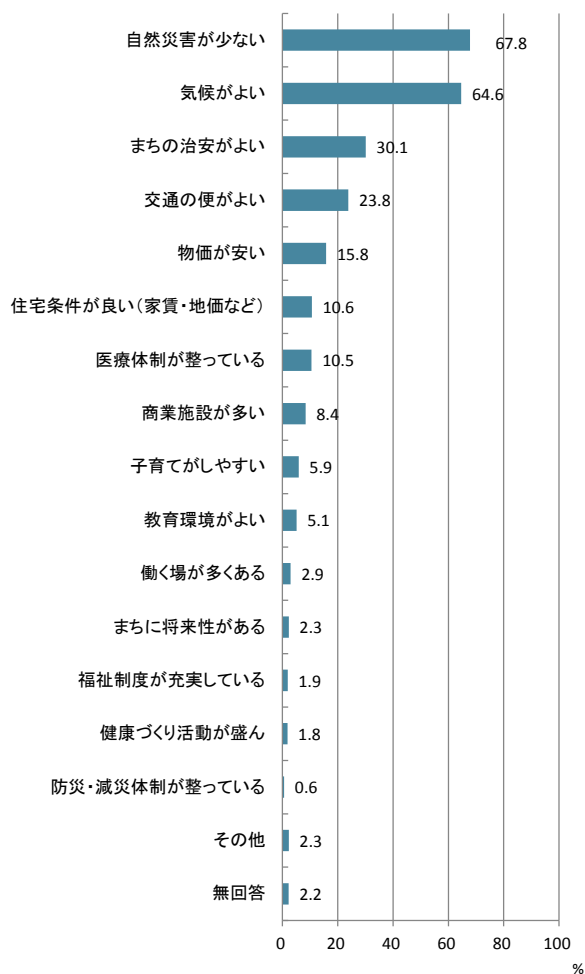
1年未満
 1年以上5年未満
 5年以上10年未満
 10年以上20年未満
 20年以上30年未満
 30年以上
 無回答

2. 松山市での暮らしについて

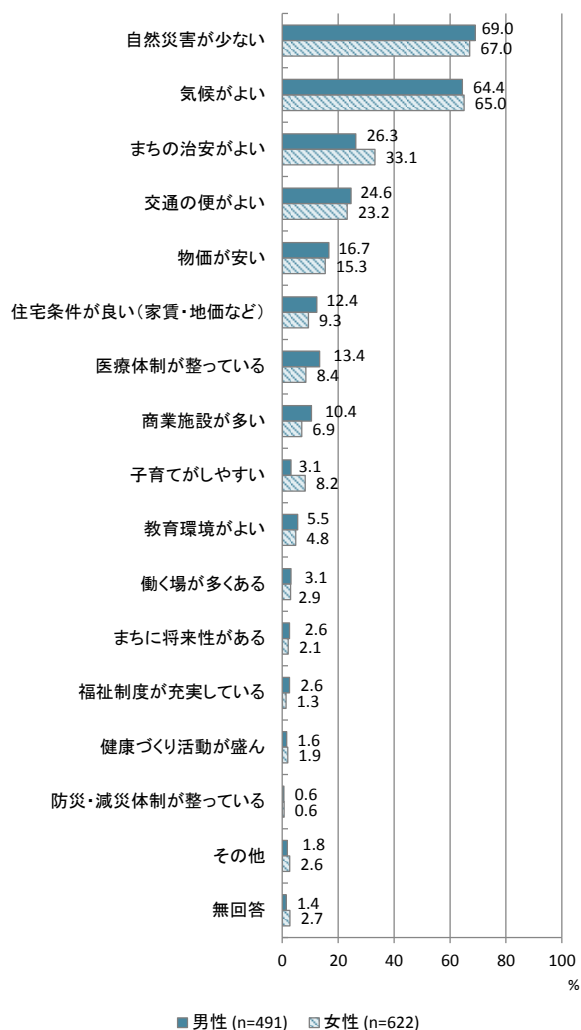
(1) 松山市のどのようなところを「住みやすい」と感じるか

- ・全体では、「自然災害が少ない」(67.8%)と「気候がよい」(64.6%)が突出して高く、「まちの治安がよい」(30.1%)、「交通の便がよい」(23.8%)と続いた。
- ・性別では、男女ともに「自然災害が少ない」「気候がよい」が6割を超えており、この2項目が突出している。
- ・年齢別では、20歳代以下、40歳代、60歳代、70歳以上では「自然災害が少ない」が最も高く、60歳代では8割を超えている。次いで「気候がよい」、3位は70歳以上を除き「まちの治安がよい」となった。70歳以上では「交通の便がよい」が3位となっている。30歳代、50歳代では「気候がよい」が最も高く、次いで「自然災害が少ない」、「まちの治安がよい」の順で続いた。
- ・地域別では、第5ブロック、第6ブロックを除いた地域では「自然災害が少ない」が最も高く、次いで「気候がよい」、3位は第3ブロックを除き「まちの治安がよい」となった。第3ブロックでは「まちの治安がよい」、「交通の便がよい」がともに27.6%で同率となった。第5ブロック、第6ブロックでは「気候がよい」が最も高く、次いで「自然災害が少ない」、「まちの治安がよい」の順で続いた。

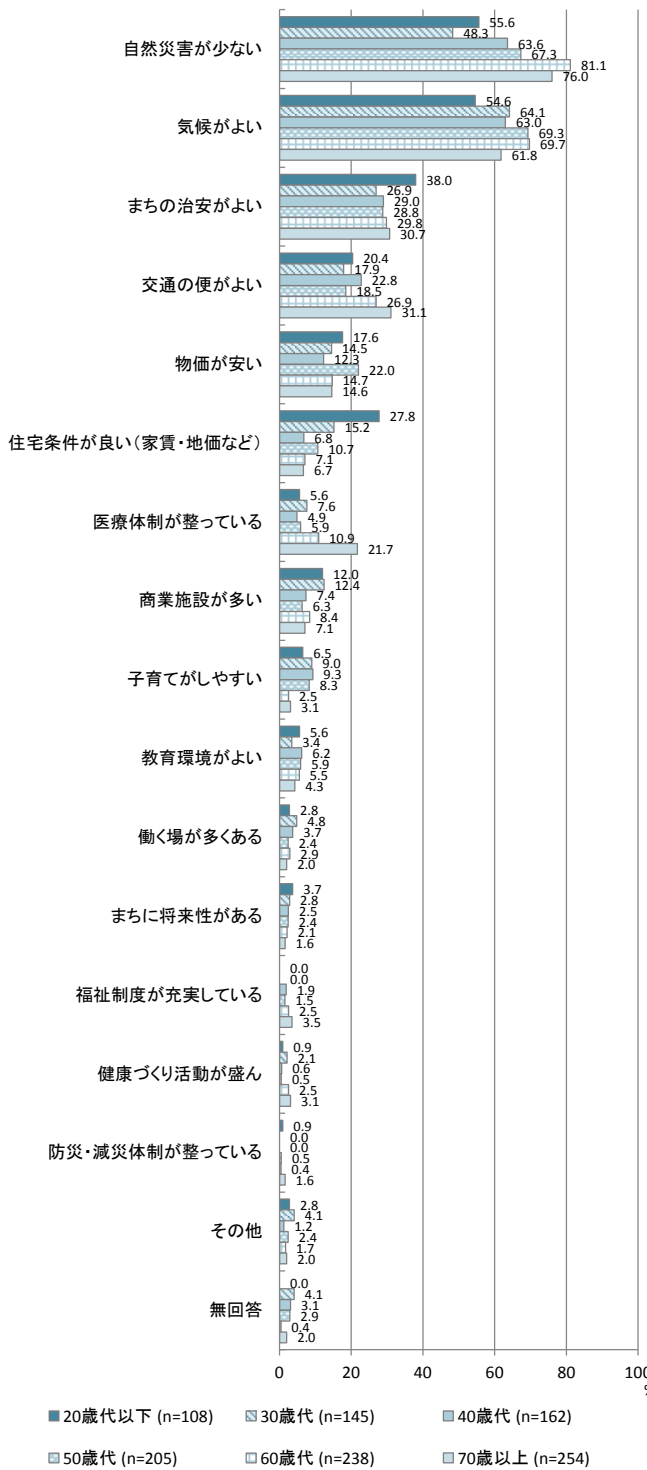
<全体>



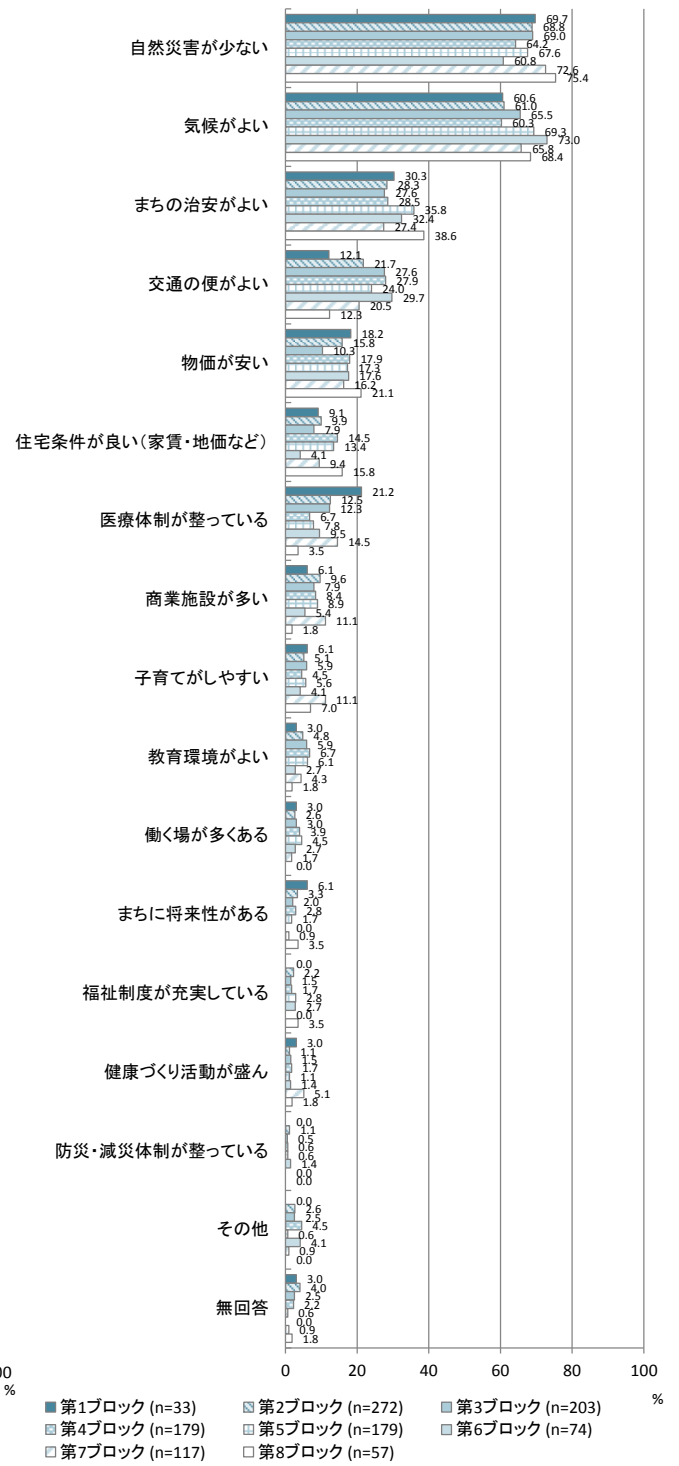
<性別>



<年齢別>



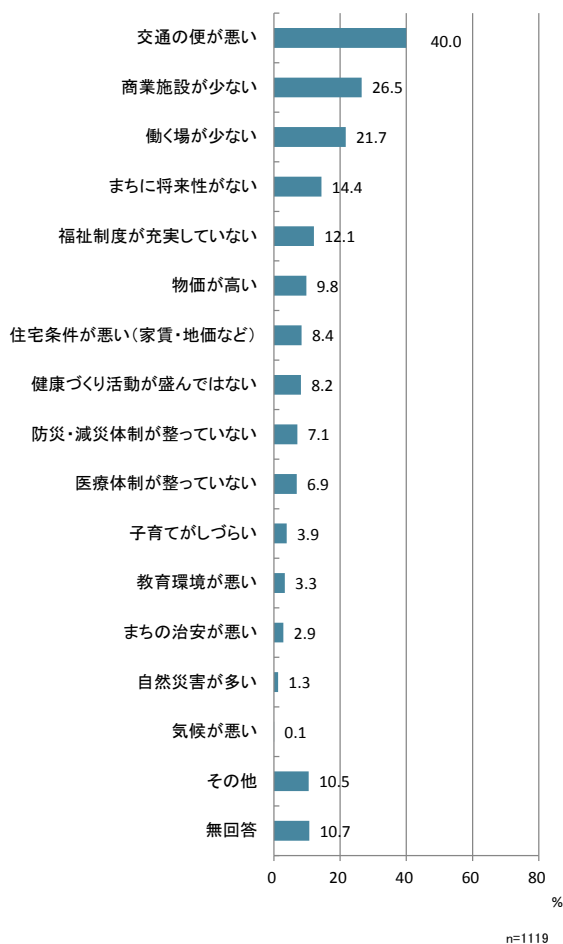
<地域別>



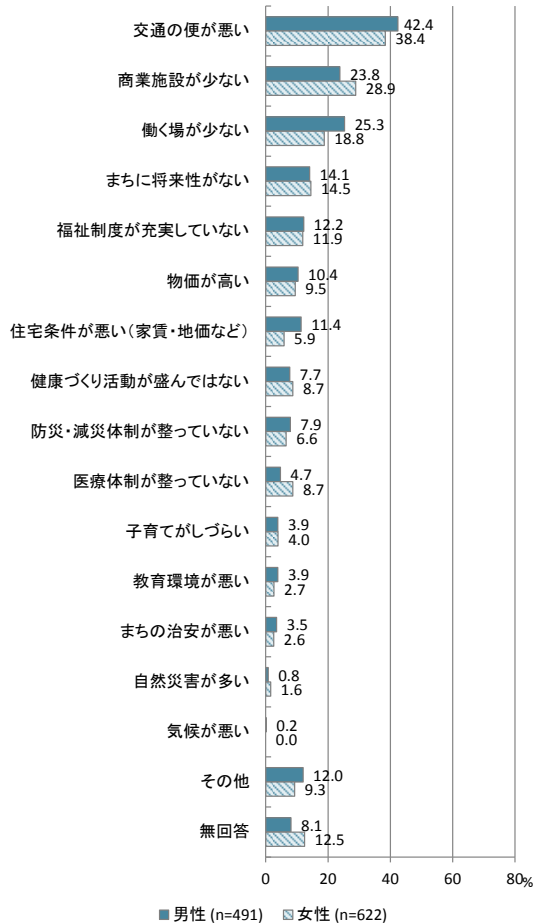
(2) 松山市のどのようなところを「住みにくい」と感じるか

- ・ 全体では、「交通の便が悪い」(40.0%) が最も高く、次いで「商業施設が少ない」(26.5%)、「働く場が少ない」(21.7%)、「まちに将来性がない」(14.4%)、「福祉制度が充実していない」(12.1%) と続いた。
- ・ 性別では、男女ともに「交通の便が悪い」が4割前後と最も高かった。男性は「働く場が少ない」、「商業施設が少ない」の順で続き、女性は「商業施設が少ない」、「働く場が少ない」の順で続いた。
- ・ 年齢別では、全ての年代で「交通の便が悪い」が最も高く、20歳代以下では55.6%となった。次いで20歳代以下、30歳代、40歳代、50歳代では「商業施設が少ない」、「働く場が少ない」の順で続いた。60歳代では「働く場が少ない」と「まちに将来性がない」が同率の22.3%、70歳以上では「働く場が少ない」、「福祉制度が充実していない」と続いた。「福祉制度が充実していない」は50歳代、60歳代、70歳以上で1割を超え、それ以下の年代に比べ高くなっている。
- ・ 地域別では、全ての地域で「交通の便が悪い」が最も高く、第1ブロックでは54.5%となった。第1ブロックと第6ブロック以外の地域では、次いで「商業施設が少ない」、「働く場が少ない」の順で続いた。第1ブロックでは「商業施設が少ない」「働く場が少ない」「まちに将来性がない」がいずれも15.2%、第6ブロックでは「商業施設が少ない」「働く場が少ない」がともに27.0%で同率となった。

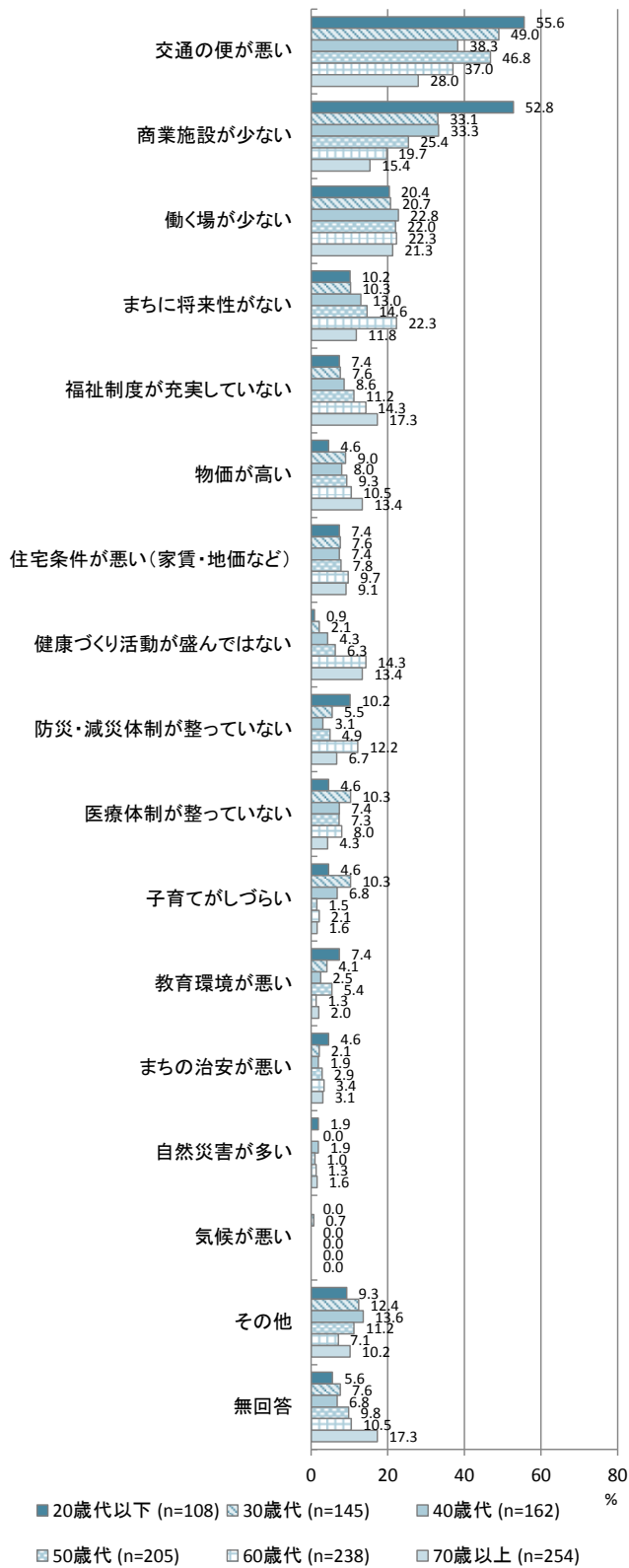
<全体>



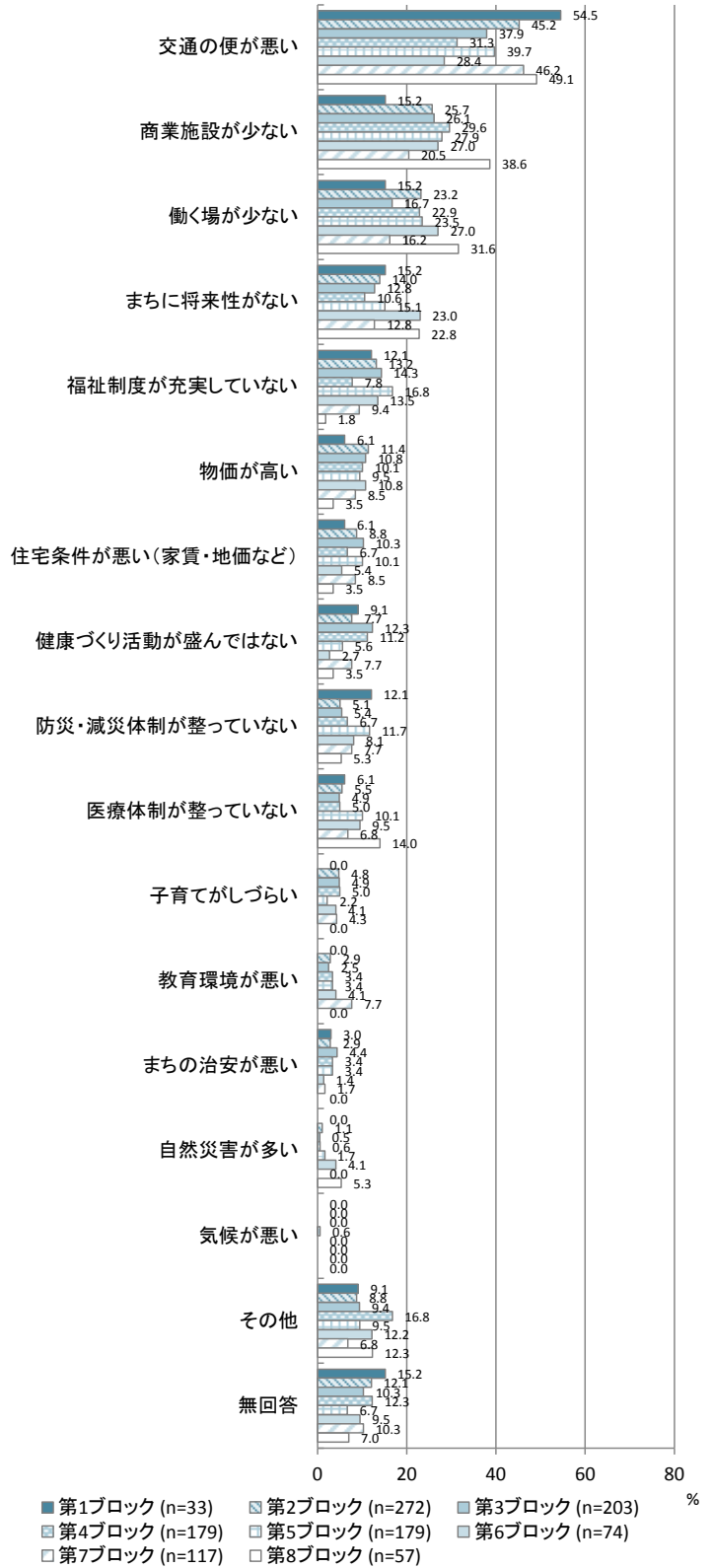
<性別>



<年齢別>

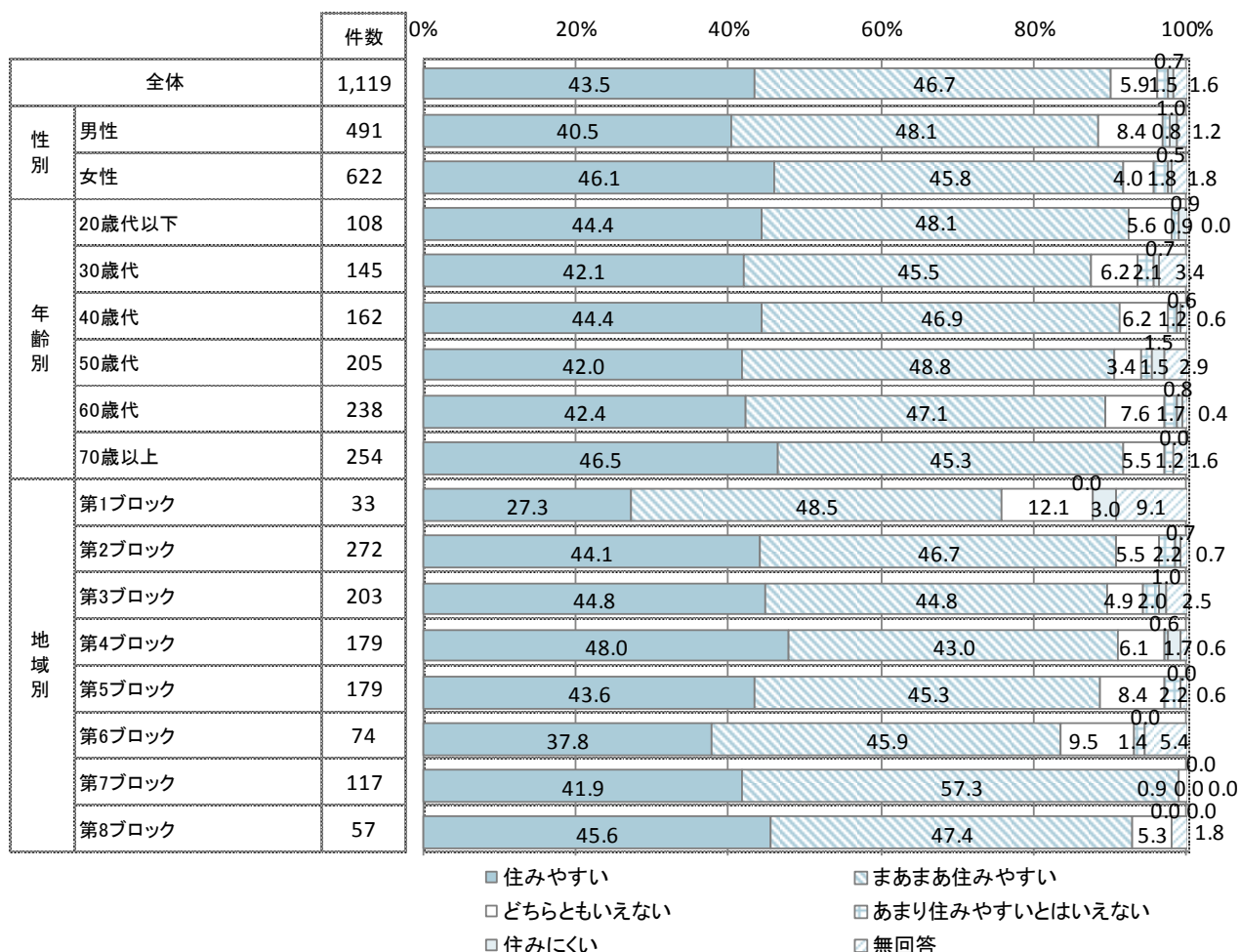


<地域別>



(3) 松山市は住みやすいまちか

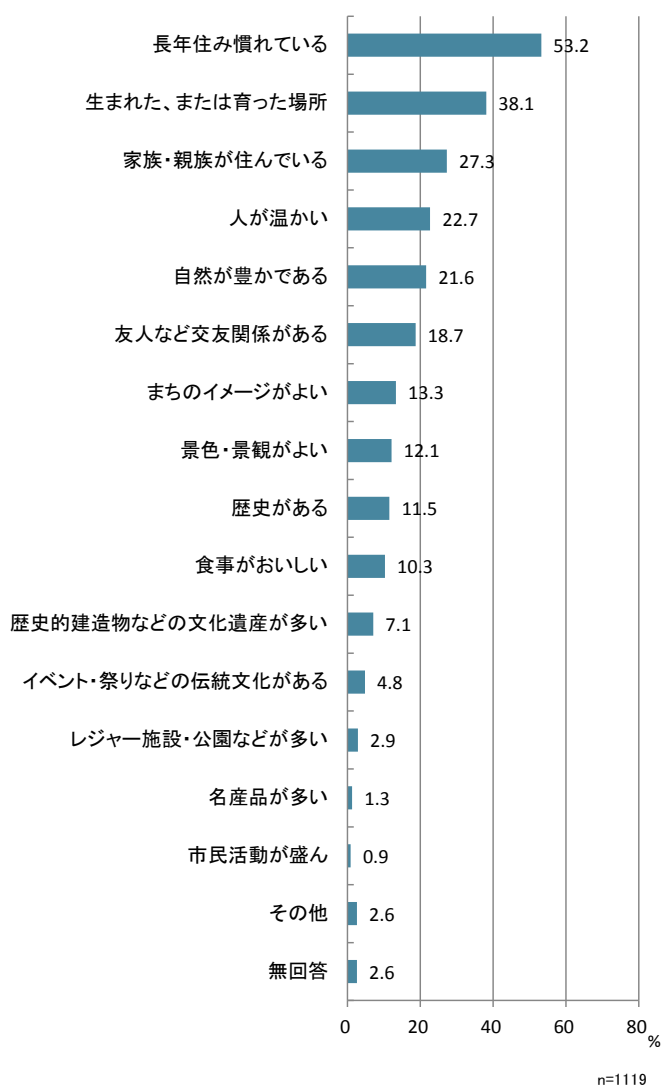
- ・全体では、「まあまあ住みやすい」が46.7%で最も高く、次いで「住みやすい」が43.5%と続き、合わせて大半の90.2%が『住みやすい』と感じている。
- ・前年調査時（H29年度）との比較では、『住みやすい』は1.6ポイントの増加となり、そのうち、「住みやすい」は1.4ポイント増加し、「まあまあ住みやすい」は0.2ポイントの微増となった。
- ・性別では、『住みやすい』は男性88.6%、女性91.9%で、ともに9割前後を占めている。
- ・年齢別では、全ての年代で『住みやすい』が8割を超え、20歳代以下、40歳代、50歳代、70歳以上では9割を超えている。唯一70歳以上で1.2ポイントの僅差ながら「住みやすい」が「まあまあ住みやすい」を上回った。
- ・地域別では、第1ブロック以外の地域で『住みやすい』が8割を超え、中でも第2ブロック、第4ブロック、第7ブロック、第8ブロックでは9割を超えている。第1ブロックでは『住みやすい』が75.8%にとどまっておき、「住みにくい」が3.0%と、他の地域と比べやや高くなっている。



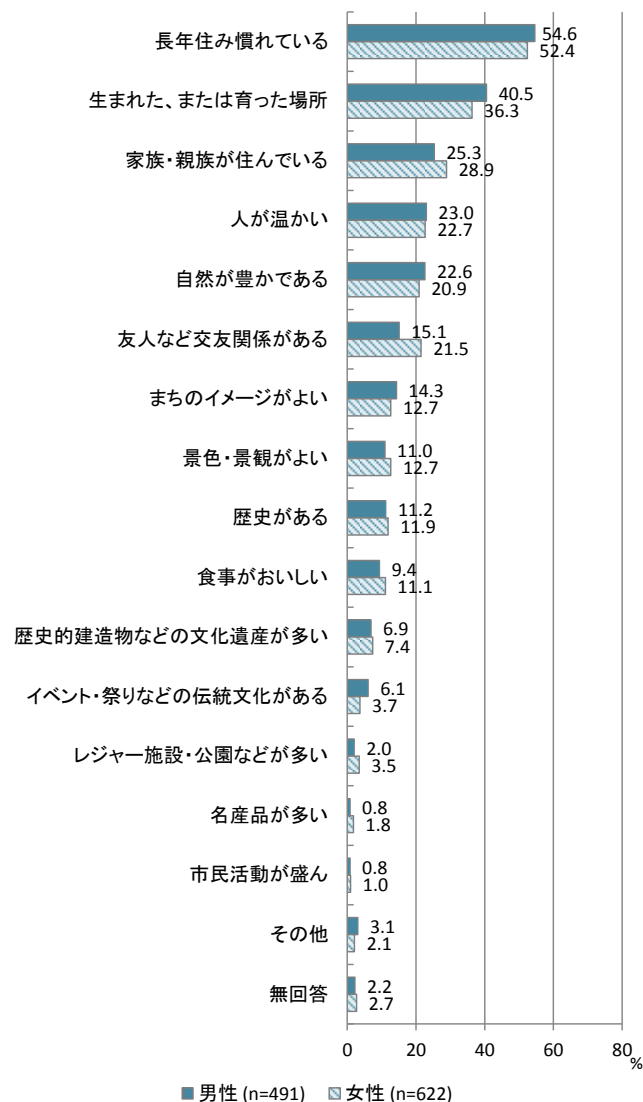
(4) 松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じるか

- ・全体では、「長年住み慣れている」(53.2%)が唯一5割を超え、次いで「生まれた、または育った場所」(38.1%)、「家族・親族が住んでいる」(27.3%)、「人が温かい」(22.7%)、「自然が豊かである」(21.6%)、「友人など交友関係がある」(18.7%)と続いた。
- ・性別では、男女ともに「長年住み慣れている」が5割を超え最も高く、次いで「生まれた、または育った場所」、「家族・親族が住んでいる」と続いた。
- ・年齢別では、20歳代以下と40歳代で「生まれた、または育った場所」が最も高く、次いで20歳代以下では「長年住み慣れている」、「友人など交友関係がある」と続き、40歳代では「長年住み慣れている」、「家族・親族が住んでいる」と続いた。30歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「長年住み慣れている」が最も高く、次いで「生まれた、または育った場所」と続いた。3位は、50歳代と60歳代は「家族・親族が住んでいる」、70歳以上は「人が温かい」となった。
- ・地域別では、第8ブロックを除いたいずれの地域も「長年住み慣れている」が最も高く、次いで「生まれた、または育った場所」と続いた。第8ブロックでは「生まれた、または育った場所」が最も高く、次いで「長年住み慣れている」となっている。第8ブロックは「自然が豊かである」が40.4%、「景色・景観がよい」が26.3%と他の地域に比べ高くなっている。

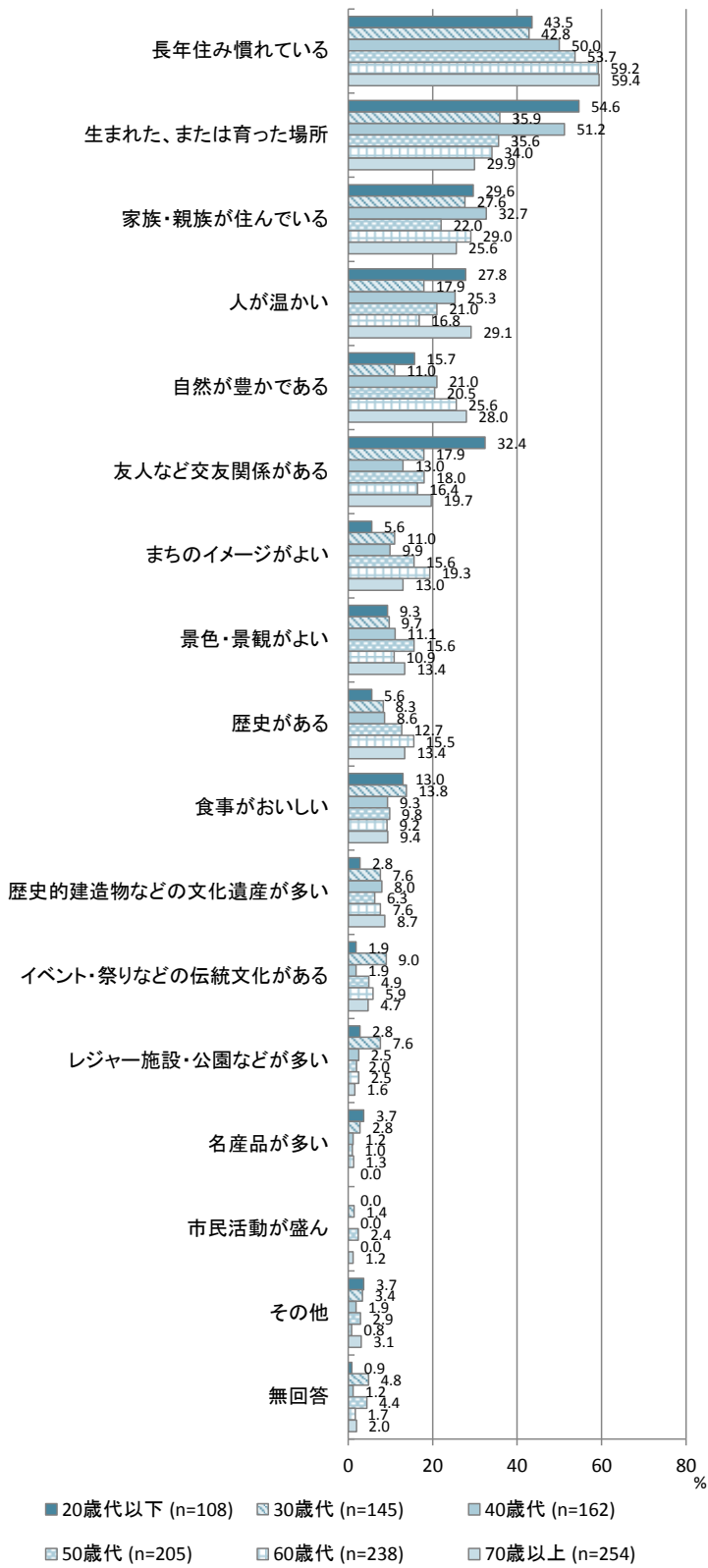
<全体>



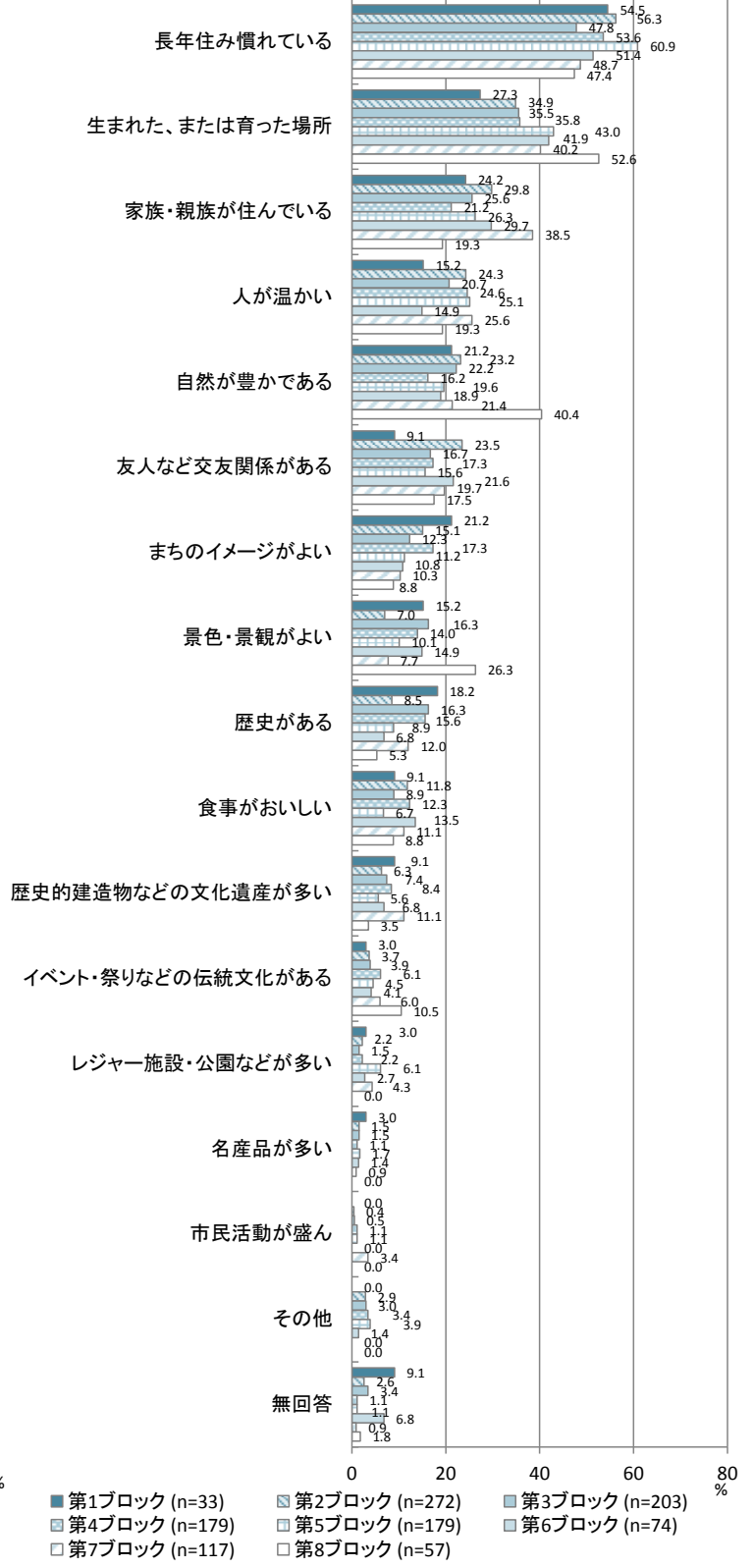
<性別>



<年齢別>



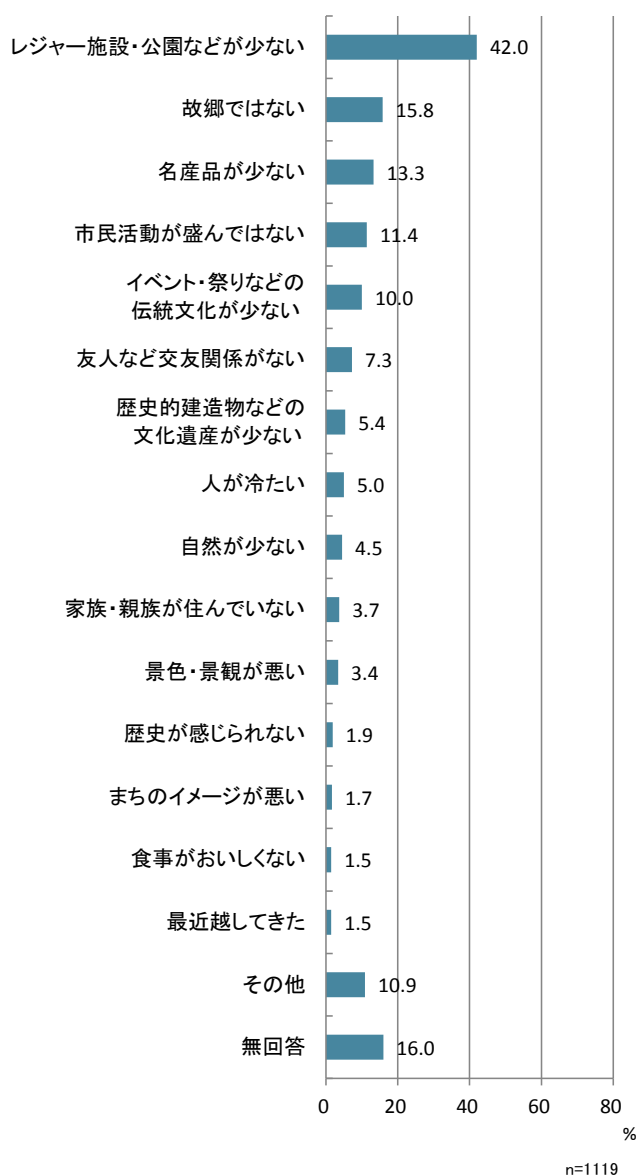
<地域別>



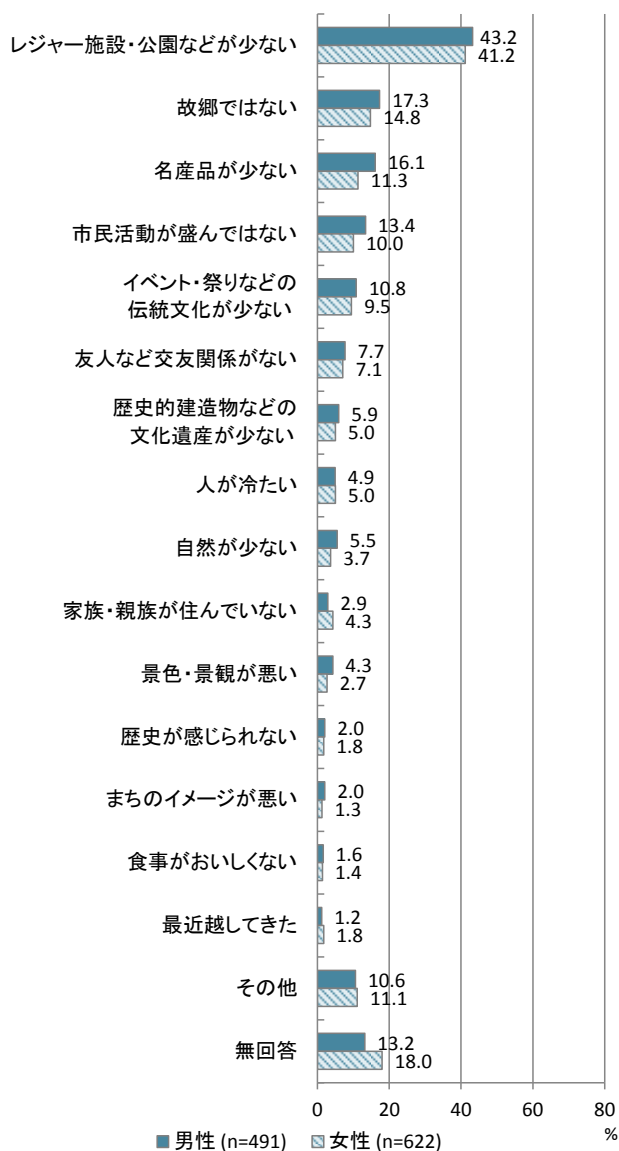
(5) 松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じにくいのか

- ・全体では、「レジャー施設・公園などが少ない」(42.0%)が4割台と突出して高い。以下、「故郷ではない」(15.8%)、「名産品が少ない」(13.3%)、「市民活動が盛んではない」(11.4%)、「イベント・祭りなどの伝統文化が少ない」(10.0%)と続いた。
- ・性別では、男女ともに「レジャー施設・公園などが少ない」4割を超え最も高く、次いで「故郷ではない」、「名産品が少ない」と続いた。
- ・年齢別では、全ての年代で「レジャー施設・公園などが少ない」が突出して高く、特に20歳代以下では5割を超えている。20歳代以下では次いで「名産品が少ない」が続き、3位は「故郷ではない」と「イベント・祭りなどの伝統文化が少ない」が13.0%で同率となっている。30歳代、50歳代、60歳代では「故郷ではない」、「名産品が少ない」の順に続いた。40歳代では次いで「故郷ではない」と「イベント・祭りなどの伝統文化が少ない」が12.3%で同率となっている。70歳以上では「市民活動が盛んではない」、「名産品が少ない」の順に続いた。
- ・地域別では、全ての地域で「レジャー施設・公園などが少ない」が最も高いものの、第1ブロックでは33.3%、第2ブロックでは50.0%と、地域間で差が開いている。

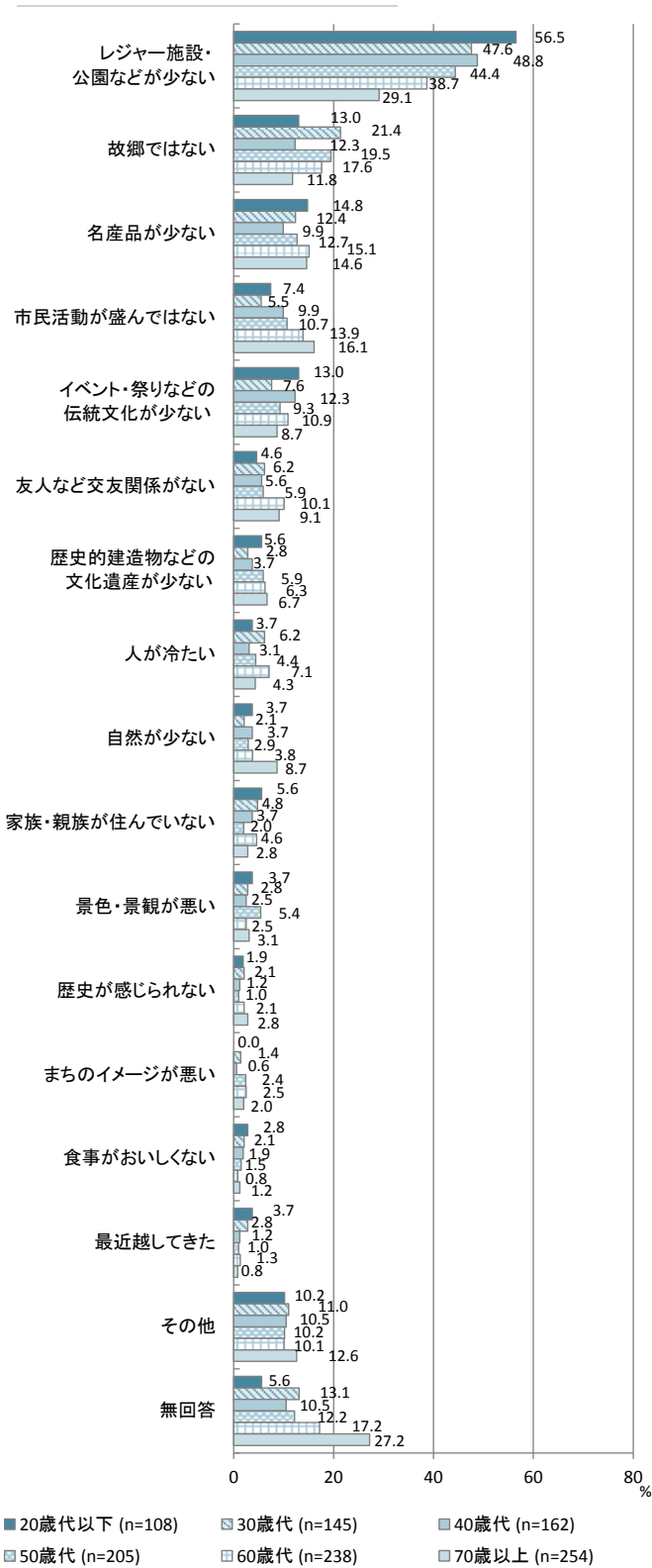
<全体>



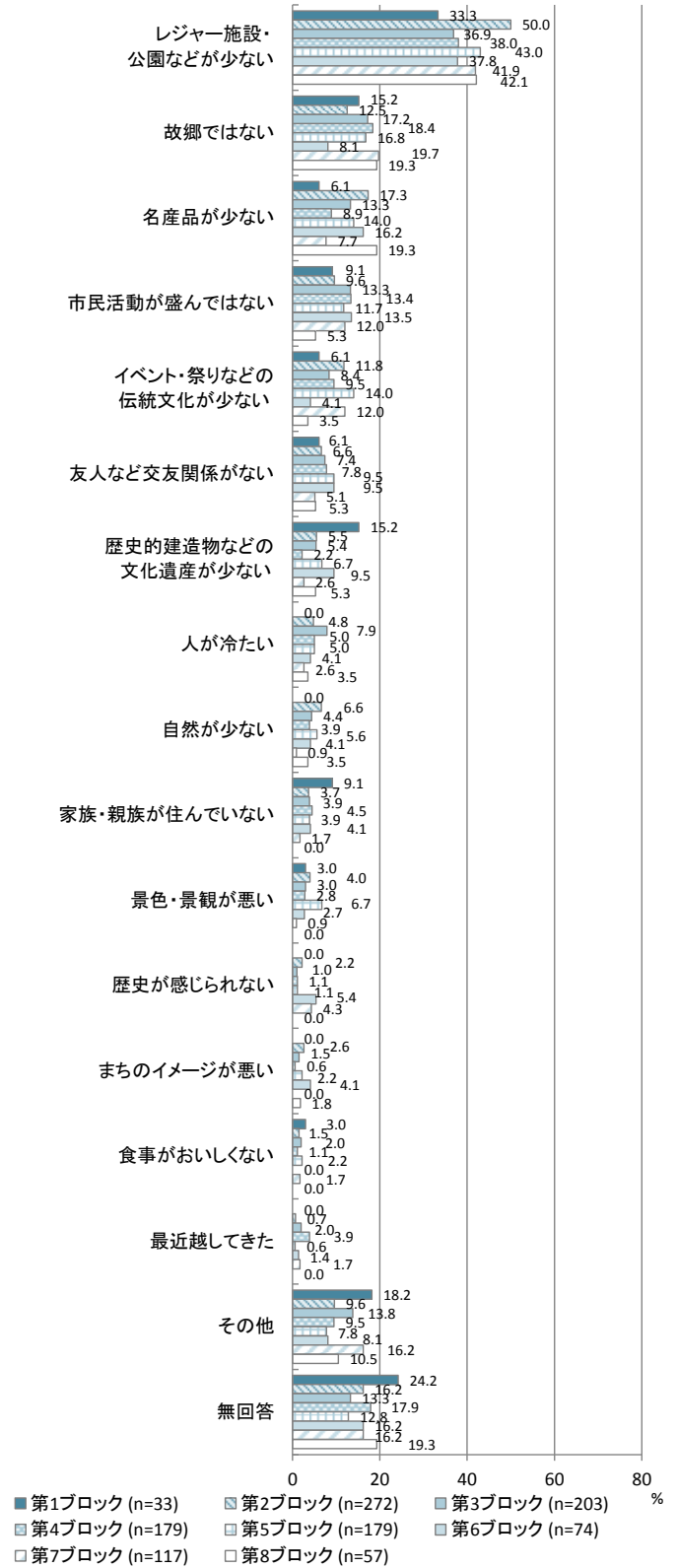
<性別>



<年齢別>

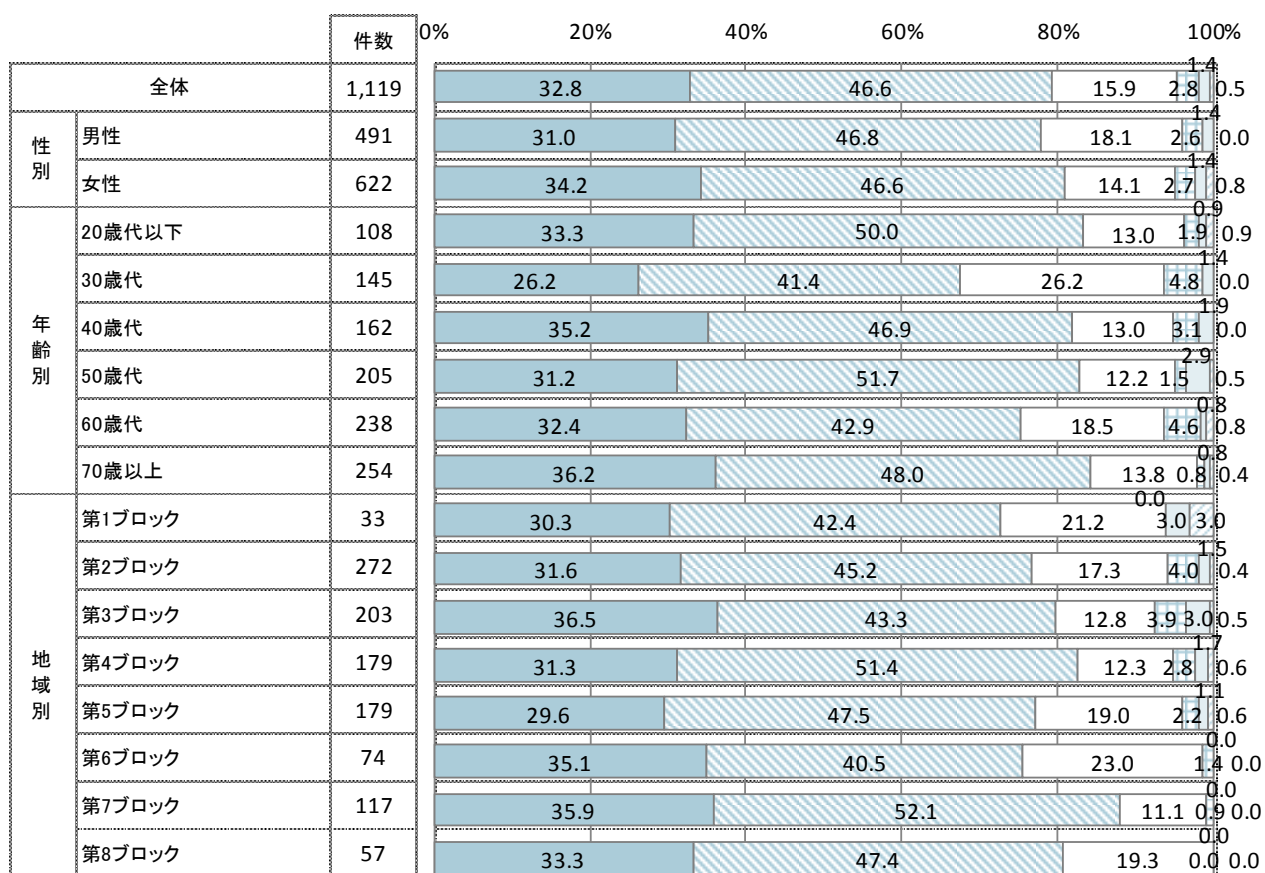


<地域別>



(6) 松山市に愛着や誇りを感じるか

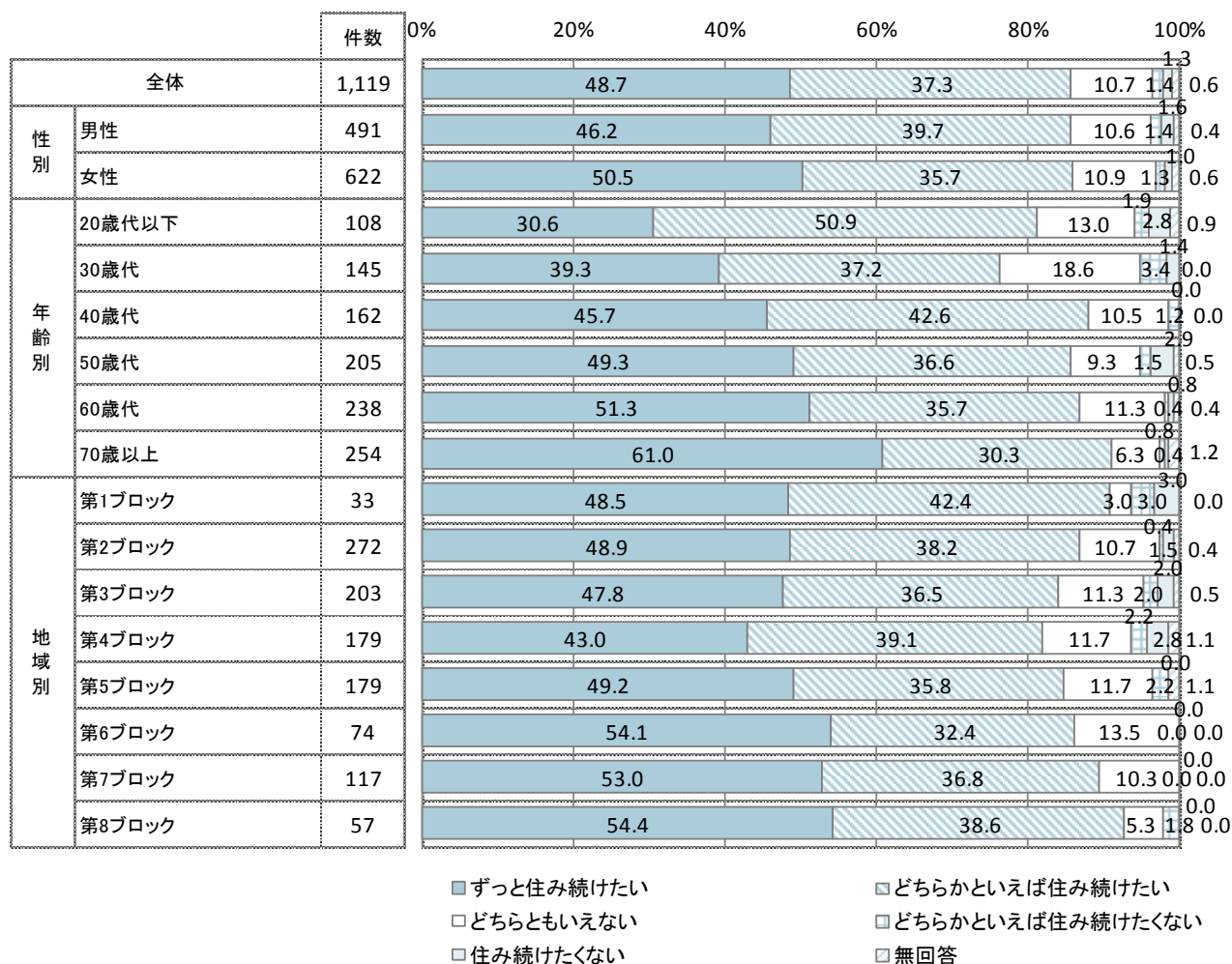
- ・全体では、「まあまあ感じる」が46.6%とほぼ半数を占め、次いで「感じる」が32.8%、合わせて79.4%が『感じる』と回答している。
- ・性別では、『感じる』は男性77.8%、女性80.8%で、ともに8割前後となっている。
- ・年齢別では、30歳代を除いたいずれの年代も『感じる』が7割を超え、20歳代以下、40歳代、50歳代、70歳以上では8割を超えている。30歳代では「まあまあ感じる」が41.4%、「感じる」と「どちらともいえない」がともに26.2%で同率となり、『感じる』は67.6%にとどまった。一方、『感じない』は6.2%であった。「どちらともいえない」は他の年代に比べ高くなっている。
- ・地域別では、全ての地域で『感じる』が7割を超え、第4ブロック、第7ブロック、第8ブロックで8割を超えている。



■感じる □まあまあ感じる □どちらともいえない □あまり感じない □感じない □無回答

(7) 今後も松山市に住み続けたいか

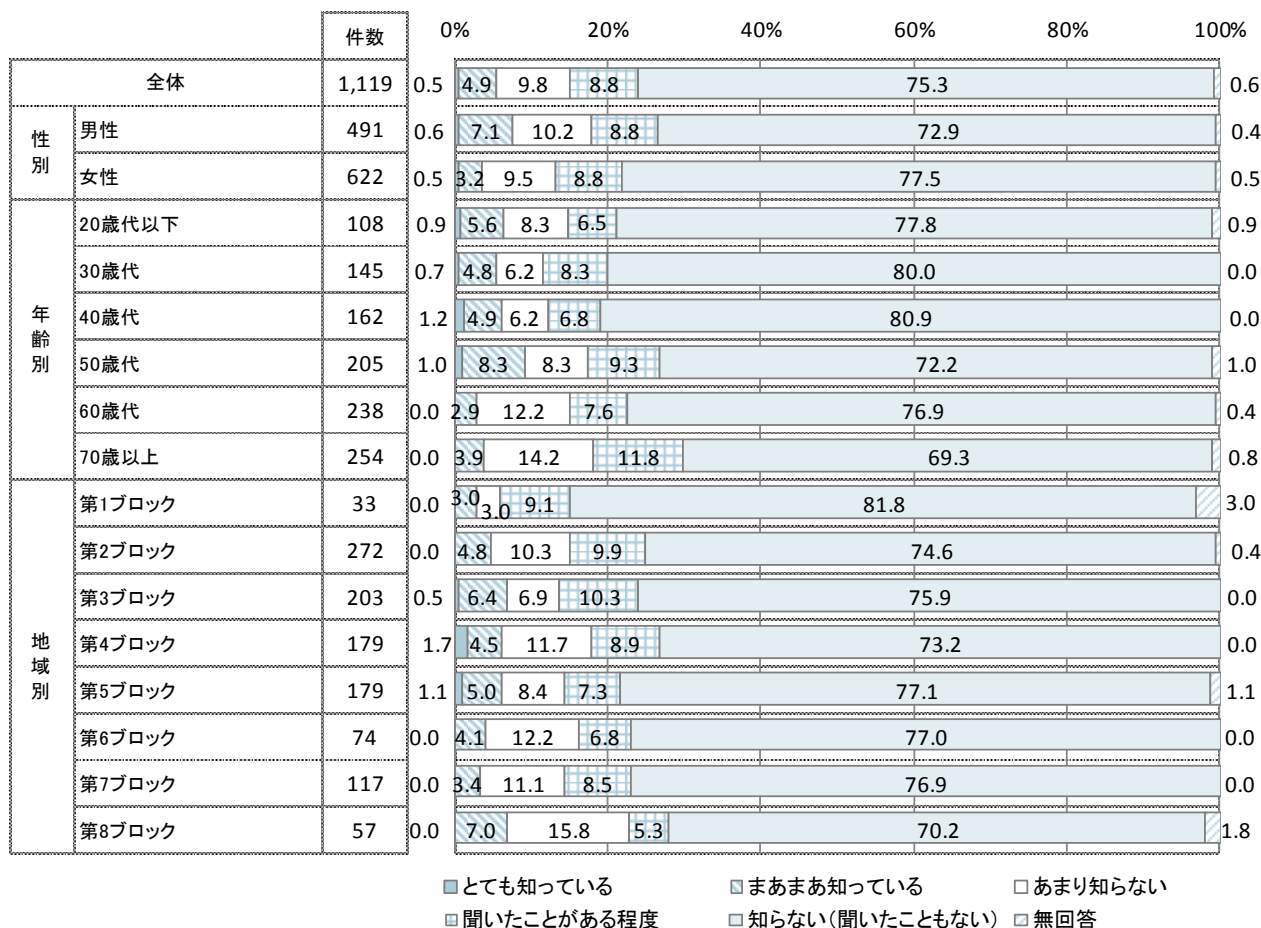
- ・全体では、「ずっと住み続けたい」が 48.7%とほぼ半数を占め、次いで「どちらかといえば住み続けたい」が 37.3%と続き、合わせて大半の 86.0%が『住み続けたい』と回答している。
- ・前年調査時（H29 年度）との比較では、『住み続けたい』は 3.1 ポイントの増加となったが、そのうち「ずっと住み続けたい」は 0.2 ポイントの微減となり、「どちらかといえば住み続けたい」は 3.3 ポイント増加した。
- ・性別では、『住み続けたい』は男性 85.9%、女性 86.2%で、ともに 8 割以上となっている。
- ・年齢別では、20 歳代以下は「どちらかといえば住み続けたい」が最も高く、次いで「ずっと住み続けたい」が続き、『住み続けたい』は 8 割台となっている。30 歳代以上では「ずっと住み続けたい」が最も高く、次いで「どちらかといえば住み続けたい」が続いている。30 歳代を除き、『住み続けたい』は 8 割を超え、特に 70 歳以上では 9 割に達している。30 歳代では『住み続けたい』は 7 割台となっている。
- ・地域別では、全ての地域で「ずっと住み続けたい」が 4 割超となり、第 6 ブロック、第 7 ブロック、第 8 ブロックでは 5 割を超えている。次いで「どちらかといえば住み続けたい」が続き、全ての地域において『住み続けたい』は 8 割を超えた。特に第 8 ブロックでは 9 割超となった。



3. SDGs(エスディーゼーズ)について

(1) SDGsについて知っているか

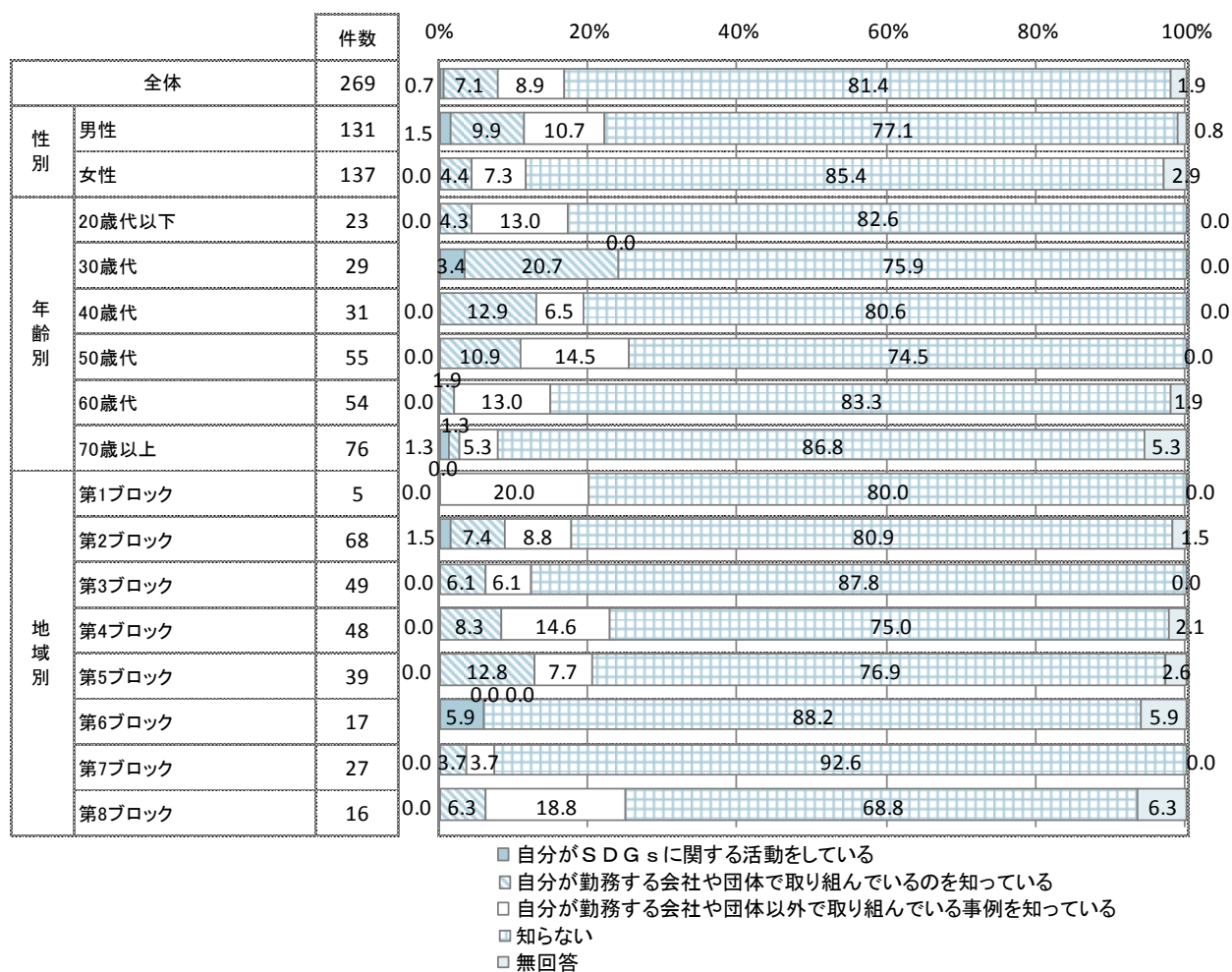
- ・全体では、「知らない(聞いたこともない)」が 75.3%で最も高く、次いで「あまり知らない」9.8%、「聞いたことがある程度」8.8%と続いた。
- ・性別では、男女ともに「知らない(聞いたこともない)」が最も高く、男性 72.9%、女性 77.5%となった。次いで「あまり知らない」「聞いたことがある程度」と続いた。
- ・年齢別では、全ての年代で「知らない(聞いたこともない)」が最も高く、30歳代と40歳代では8割以上となった。20歳代以下、60歳代、70歳以上では次いで「あまり知らない」、「聞いたことがある程度」と続き、30歳代と40歳代では「聞いたことがある程度」、「あまり知らない」の順に続いた。50歳代では次いで「聞いたことがある程度」と続き「まあまあ知っている」と「あまり知らない」が8.3%で同率となっている。
- ・地域別では、全ての地域で「知らない(聞いたこともない)」が最も高く、第1ブロックでは8割を超えた。次いで、第1ブロックと第3ブロックを除いた地域では「あまり知らない」が続き、第1ブロック、第3ブロックでは「聞いたことがある程度」が続いた。



(2) 身近でSDGsに取り組んでいる事例を知っているか

※問 14 で「とても知っている」「まあまあ知っている」「あまり知らない」「聞いたことがある程度」のいずれかを選択した場合のみ集計した。

- ・全体結果では、「知らない」が 81.4%と大半を占め、次いで「自分が勤務する会社や団体以外で取り組んでいる事例を知っている」8.9%、「自分が勤務する会社や団体で取り組んでいるのを知っている」7.1%と続いた。
- ・性別では、「知らない」が男性 77.1%、女性 85.4%で、女性が男性を 8.3 ポイント上回った。
- ・年齢別では、全ての年代で「知らない」が最も多く、7 割を超えた。次いで、30 歳代、40 歳代では「自分が勤務する会社や団体で取り組んでいる事例を知っている」、20 歳代以下及び 50 歳代以上では「自分が勤務する会社や団体以外で取り組んでいる事例を知っている」となった。
- ・地域別では、全ての地域で「知らない」が最も高く、最も低かった第 8 ブロックでは 68.8%、その他の地域ではいずれも 7 割を超えた。「自分が SDG s に関する活動をしている」は第 2 ブロック、第 6 ブロックでそれぞれ 1.5%、5.9%となり、「自分が勤務する会社や団体で取り組んでいるのを知っている」と「自分が勤務する会社や団体以外で取り組んでいる事例を知っている」を合わせた『何らかの事例を知っている』は第 8 ブロックで 25.1%と最も高くなった。

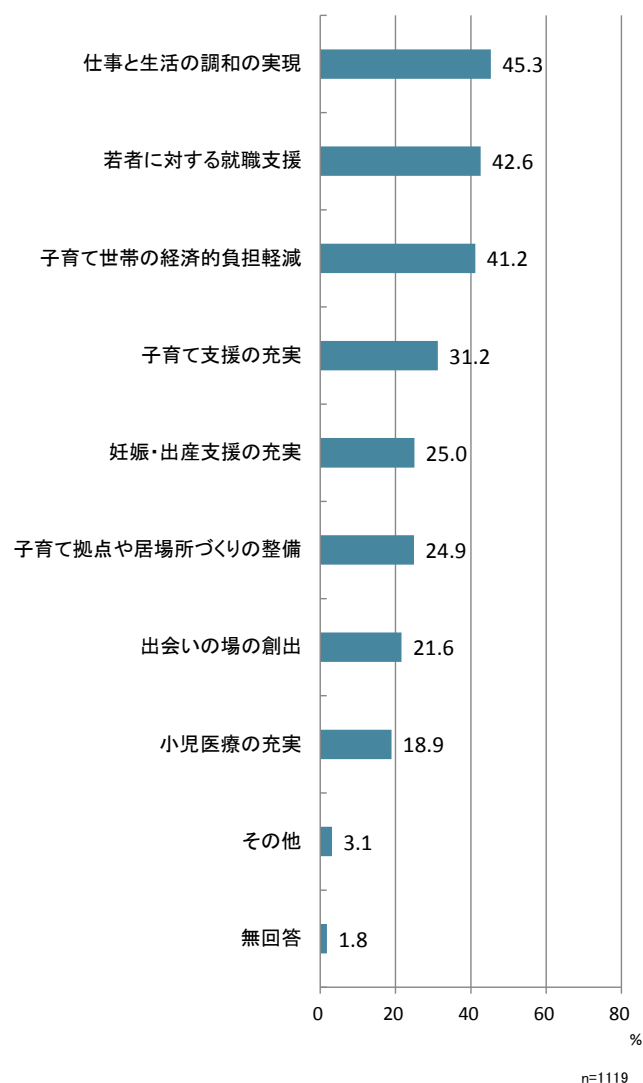


4. 人口減少社会を迎えて重点的に取り組むべき事項について

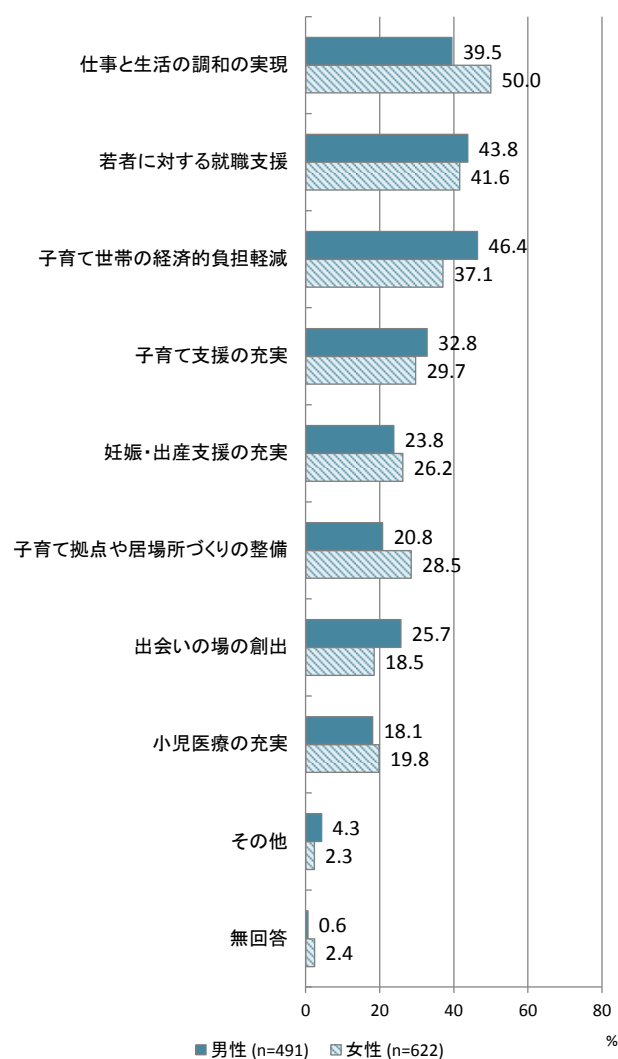
(1)【テーマ1】少子化対策

- ・全体では、「仕事と生活の調和の実現」が 45.3%で最も高く、次いで「若者に対する就職支援」42.6%、「子育て世帯の経済的負担軽減」41.2%、「子育て支援の充実」31.2%、「妊娠・出産支援の充実」25.0%、「子育て拠点や居場所づくりの整備」24.9%と続いた。
- ・性別では、男性は「子育て世帯の経済的負担軽減」が 46.4%で最も高く、次いで「若者に対する就職支援」43.8%、「仕事と生活の調和の実現」39.5%の順で続いた。女性は「仕事と生活の調和の実現」が 50.0%で最も高く、次いで「若者に対する就職支援」41.6%、「子育て世帯の経済的負担軽減」37.1%の順で続いた。
- ・年齢別では、20歳代以下と30歳代は「子育て世帯の経済的負担軽減」がともに5割前後を占め最も高かった。40歳代では「仕事と生活の調和の実現」が最も高く、50歳代では「仕事と生活の調和の実現」と「若者に対する就職支援」がともに46.3%で最も高かった。60歳代と70歳以上は「若者に対する就職支援」が最も高かった。

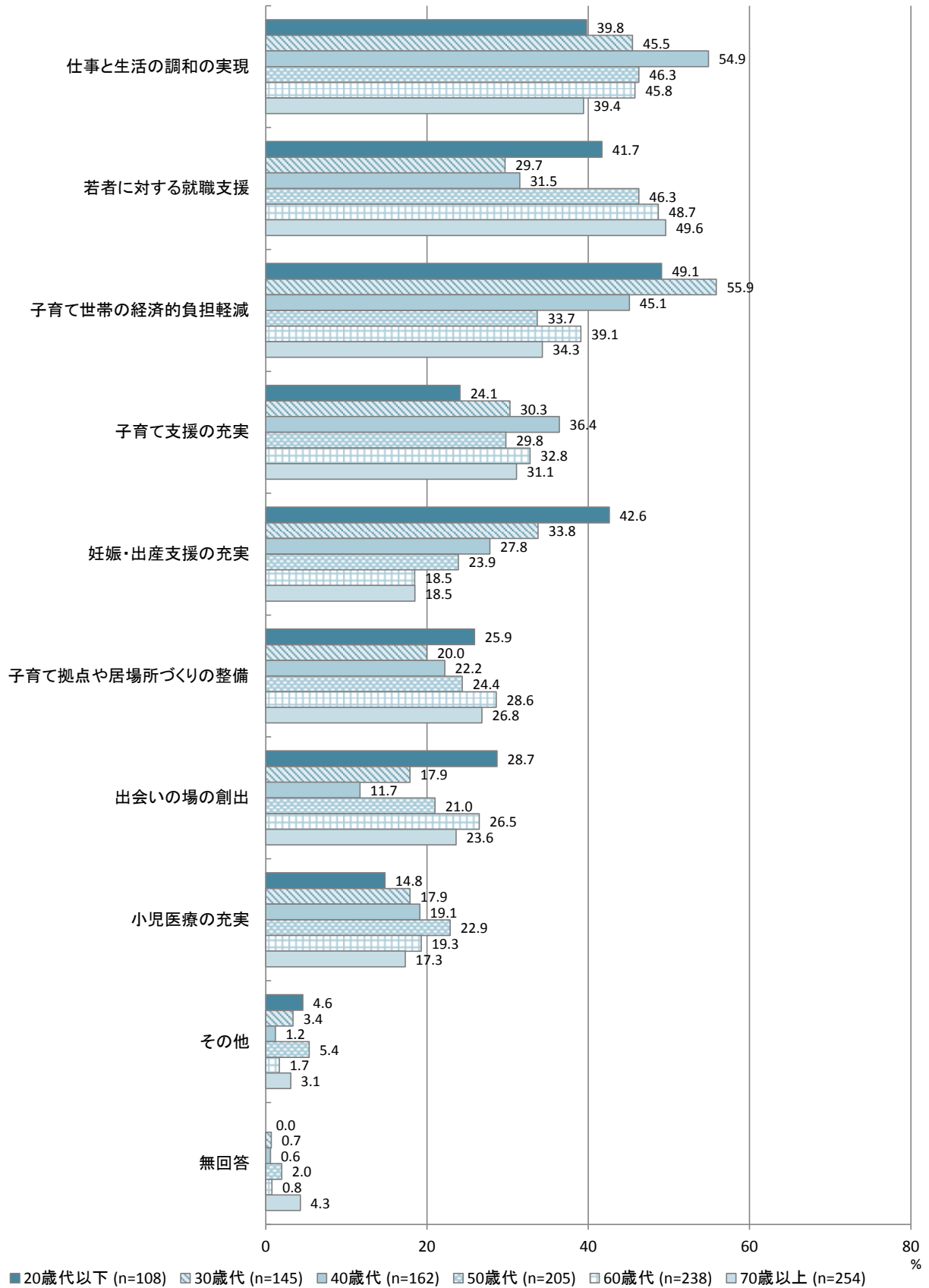
<全体>



<性別>



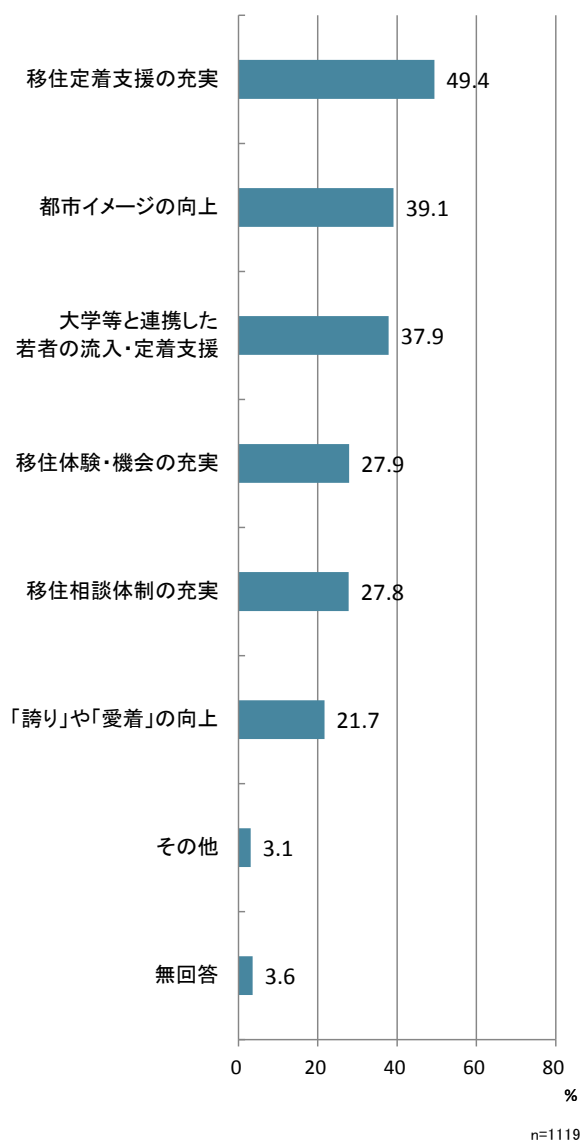
<年齢別>



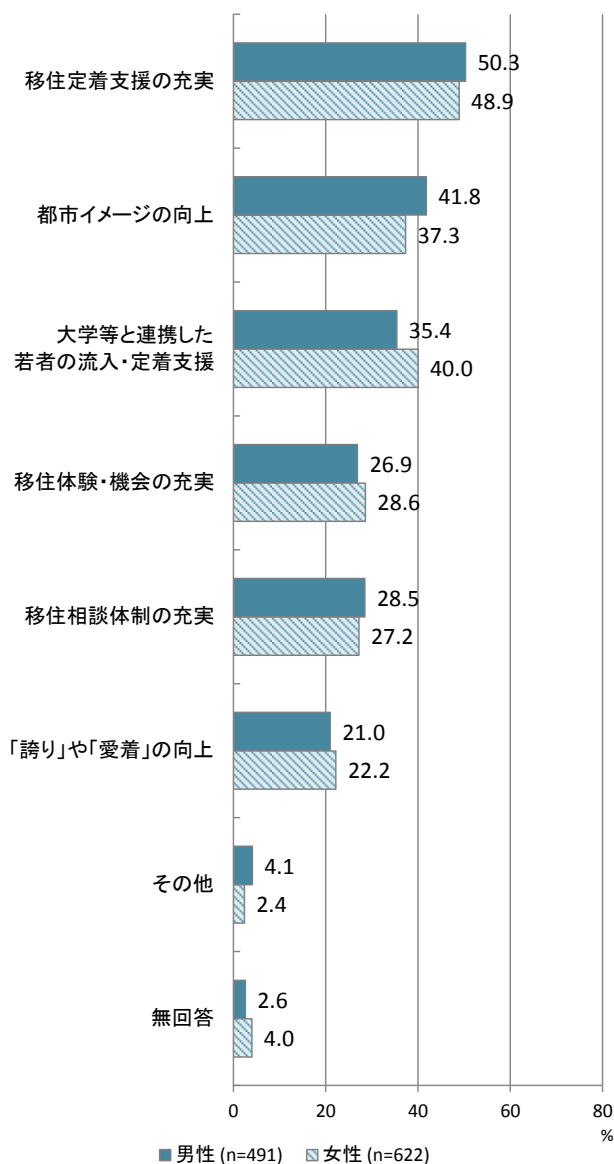
(2)【テーマ2】移住定住対策

- ・全体では、「移住定着支援の充実」が 49.4%で最も高く、次いで「都市イメージの向上」39.1%、「大学等と連携した若者の流入・定着支援」37.9%、「移住体験・機会の充実」27.9%、「移住相談体制の充実」27.8%と続いた。
- ・性別では、男女ともに「移住定着支援の充実」が最も高く、男性 50.3%、女性 48.9%となった。次いで、男性は「都市イメージの向上」、「大学等と連携した若者の流入・定着支援」、女性は「大学等と連携した若者の流入・定着支援」、「都市イメージの向上」の順となったが、全体的には大きな男女差はなかった。
- ・年齢別では、20 歳代以下と 30 歳代は「都市イメージの向上」が最も高かった。40 歳代、60 歳代、70 歳以上では「移住定着支援の充実」が 5 割を超え最も高く、50 歳代では「大学等と連携した若者の流入・定着支援」が 45.4%で最も高かった。

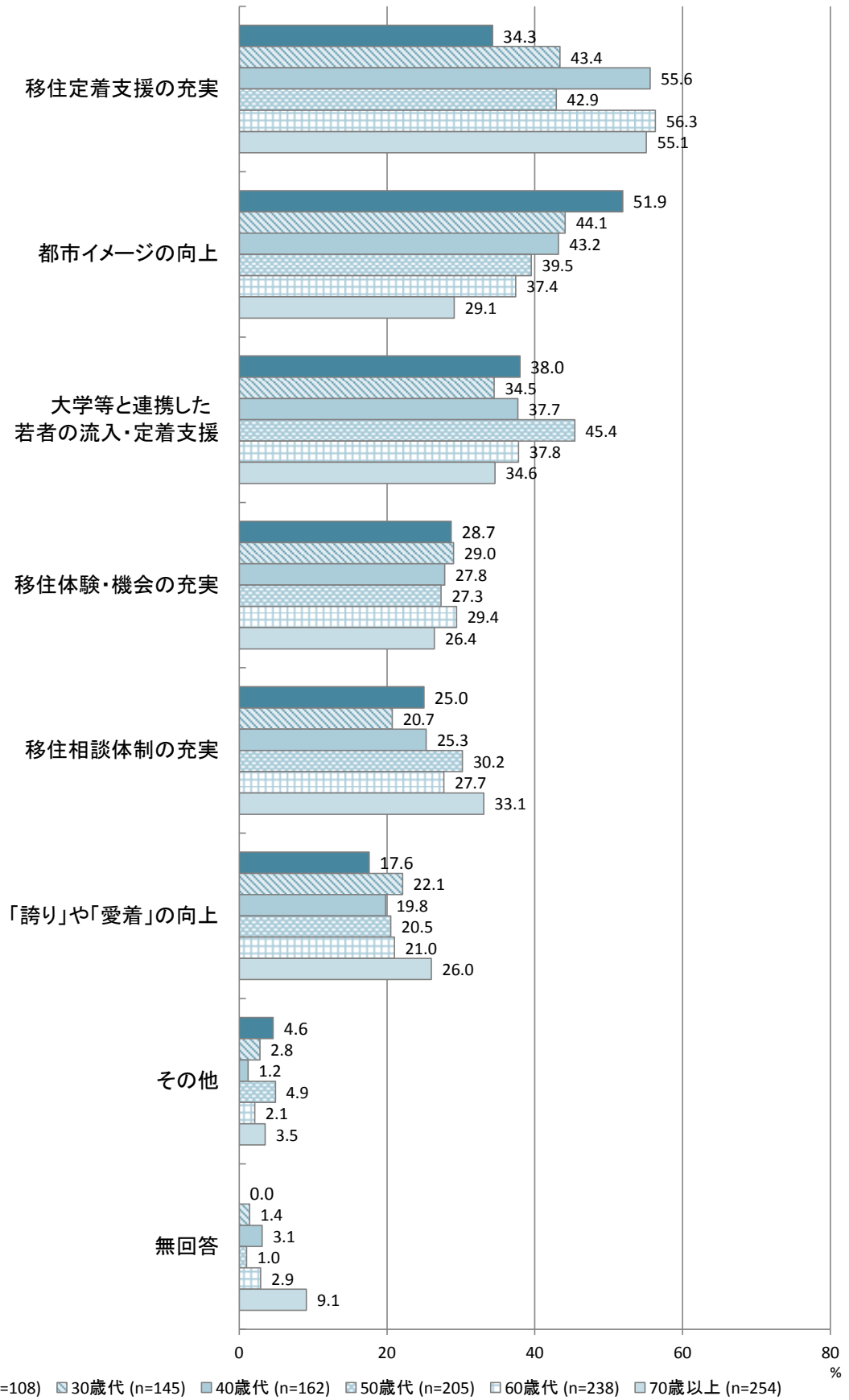
<全体>



<性別>



<年齢別>

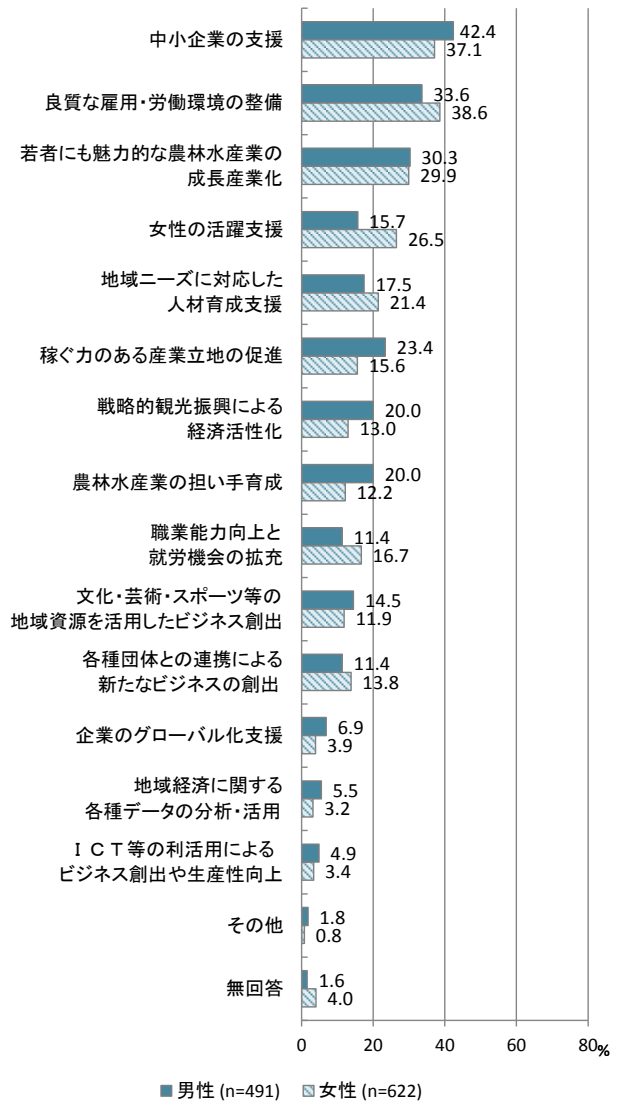
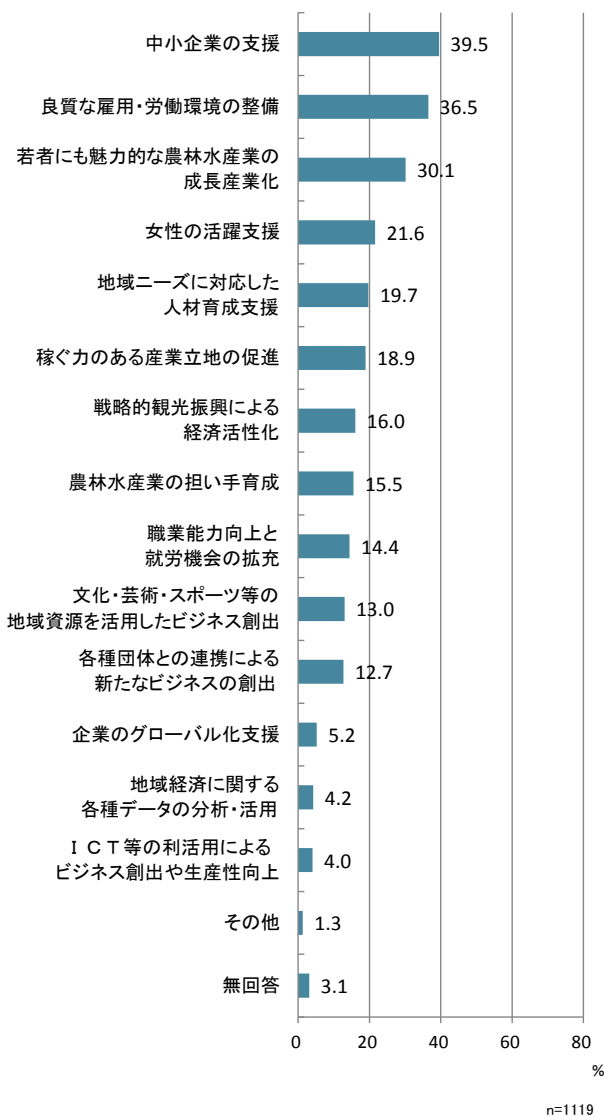


(3)【テーマ3】地域経済の活性化

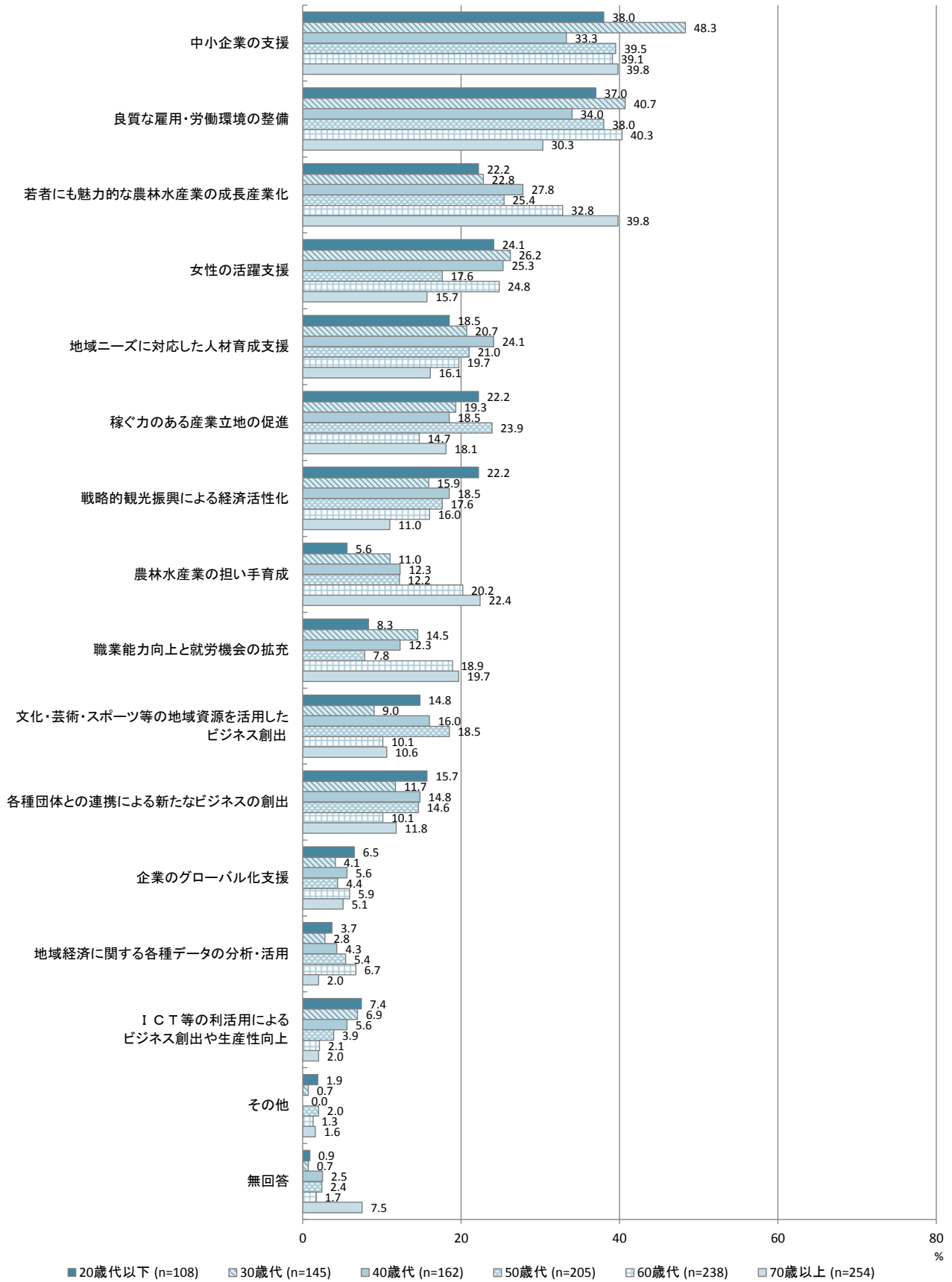
- ・全体では、「中小企業の支援」が 39.5%で最も高く、次いで「良質な雇用・労働環境の整備」36.5%、「若者にも魅力的な農林水産業の成長産業化」30.1%、「女性の活躍支援」21.6%と続いた。
- ・性別では、男性は「中小企業の支援」が 42.4%で最も高く、次いで「良質な雇用・労働環境の整備」33.6%、「若者にも魅力的な農林水産業の成長産業化」30.3%と続いた。一方、女性は「良質な雇用・労働環境の整備」が 38.6%で最も高く、次いで「中小企業の支援」37.1%、「若者にも魅力的な農林水産業の成長産業化」29.9%と続いた。男性は「稼ぐ力のある産業立地の促進」が 23.4%と女性と比べて 7.8 ポイント高く、女性は「女性の活躍支援」が 26.5%と男性と比べて 10.8 ポイント高くなっている。
- ・年齢別では、20 歳代以下、30 歳代、50 歳代は「中小企業の支援」が 4 割前後で最も高く、40 歳代と 60 歳代は「良質な雇用・労働環境の整備」が最も高かった。70 歳以上は「中小企業の支援」と「若者にも魅力的な農林水産業の成長産業化」が 39.8%の同率で最も高かった。

<全体>

<性別>



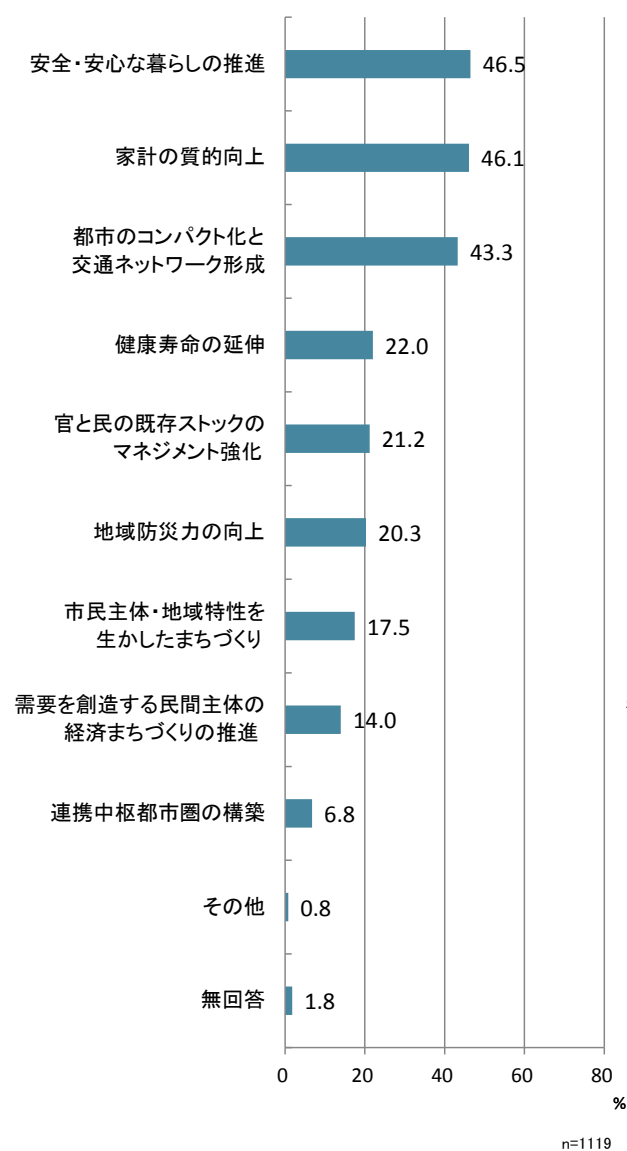
<年齢別>



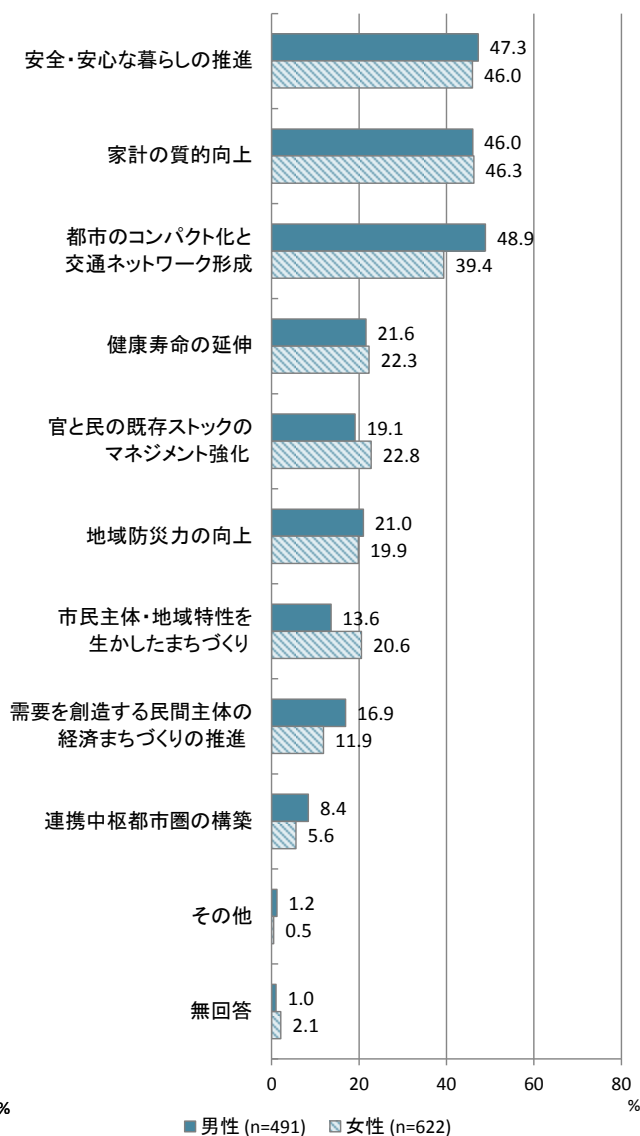
(4)【テーマ4】暮らしを守る

- ・全体では、「安全・安心な暮らしの推進」が46.5%で最も高く、次いで「家計の質的向上」46.1%、「都市のコンパクト化と交通ネットワーク形成」43.3%、「健康寿命の延伸」22.0%、「官と民のストックのマネジメント強化」21.2%と続いた。
- ・性別では、男性は「都市のコンパクト化と交通ネットワーク形成」が48.9%で最も高く、次いで「安全・安心な暮らしの推進」47.3%、「家計の質的向上」46.0%の順で続いた。女性は「家計の質的向上」が46.3%で最も高く、次いで「安全・安心な暮らしの推進」46.0%、「都市のコンパクト化と交通ネットワーク形成」39.4%の順で続いた。
- ・年齢別では、20歳代以下、30歳代、40歳代は「家計の質的向上」がいずれも5割を超え最も高かった。50歳代では「都市のコンパクト化と交通ネットワーク形成」、60歳代、70歳以上では「安全・安心な暮らしの推進」が最も高かった。全ての年代において、「安全・安心な暮らしの推進」、「家計の質的向上」、「都市のコンパクト化と交通ネットワーク形成」が上位3つを占めている。

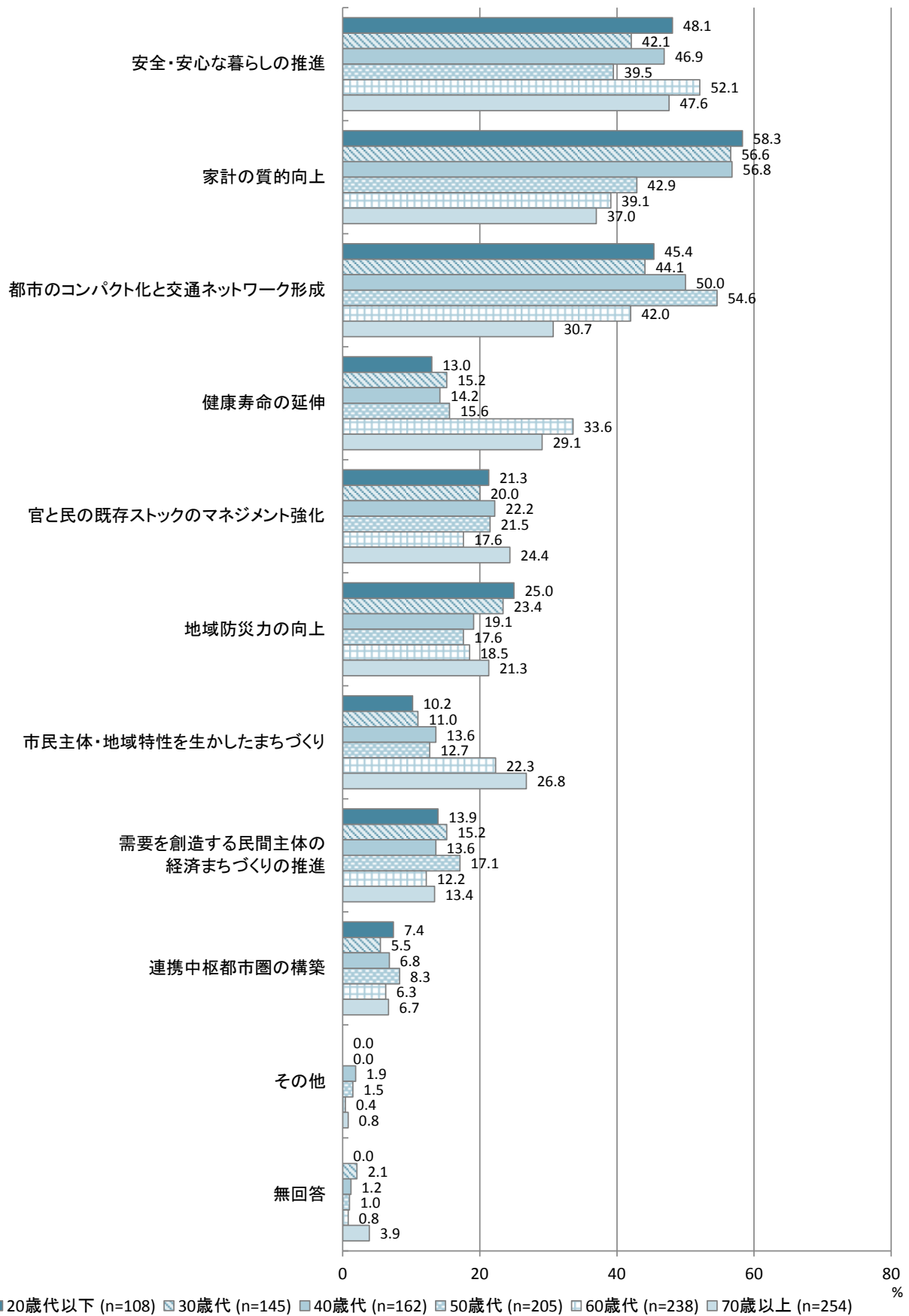
<全体>



<性別>



<年齢別>

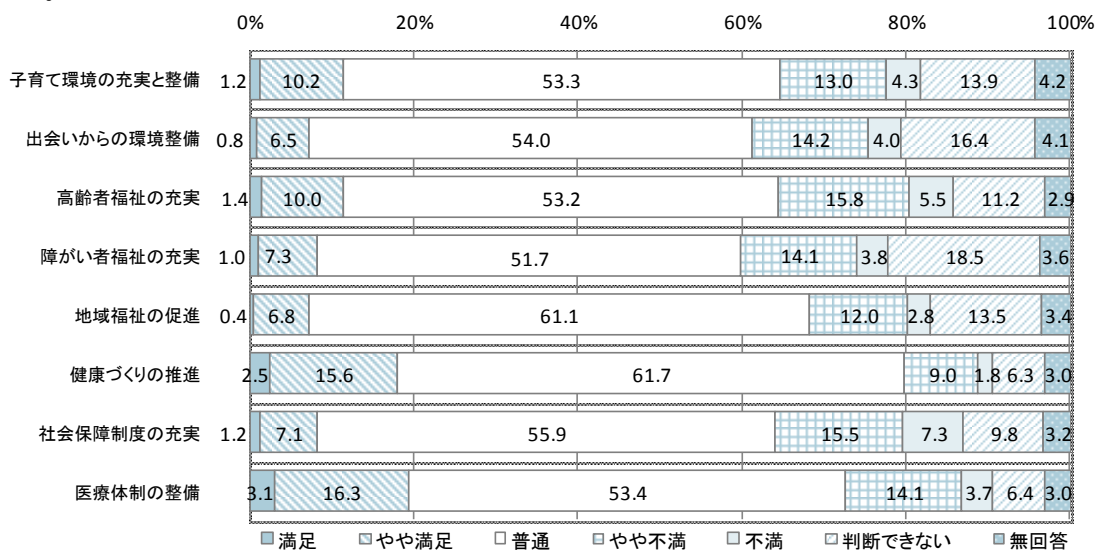


5. 市の取り組んでいる施策の満足度・重要度について

(1) 健康・福祉に関する施策

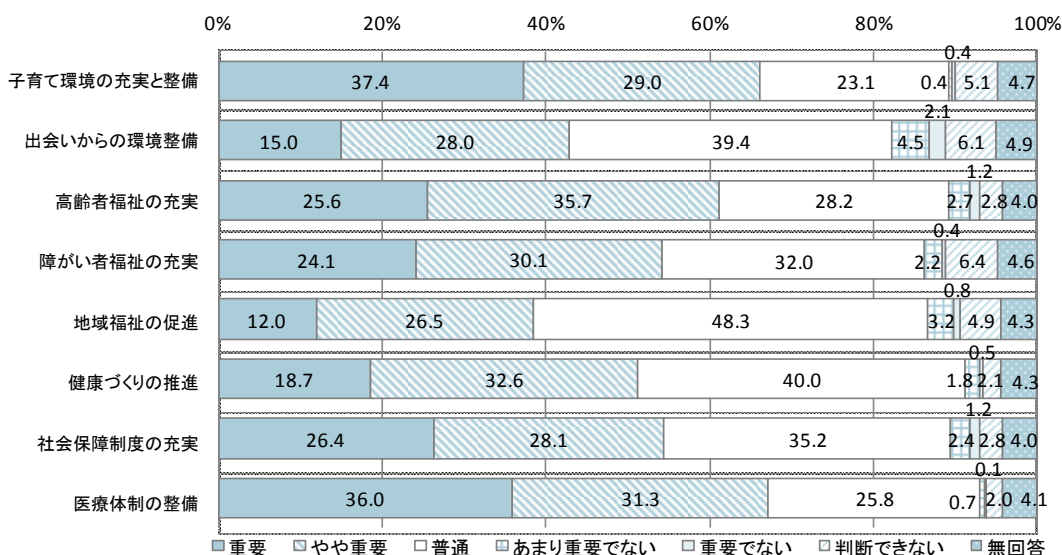
<満足度>

- 「健康・福祉」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が 5 割～6 割強を占めている。
- 「判断できない」は「障がい者福祉の充実」で 18.5%と最も高い。
- 『満足している』（「満足」+「やや満足」）と評価の高い施策の上位 3 項目は、「医療体制の整備」（19.4%）、「健康づくりの推進」（18.1%）、「子育て環境の充実と整備」及び「高齢者福祉の充実」（同率 11.4%）が続いている。
- 一方で、『不満である』（「不満」+「やや不満」）と評価の低い施策の上位 3 項目は、「社会保障制度の充実」（22.8%）、「高齢者福祉の充実」（21.3%）、「出会いからの環境整備」（18.2%）である。



<重要度>

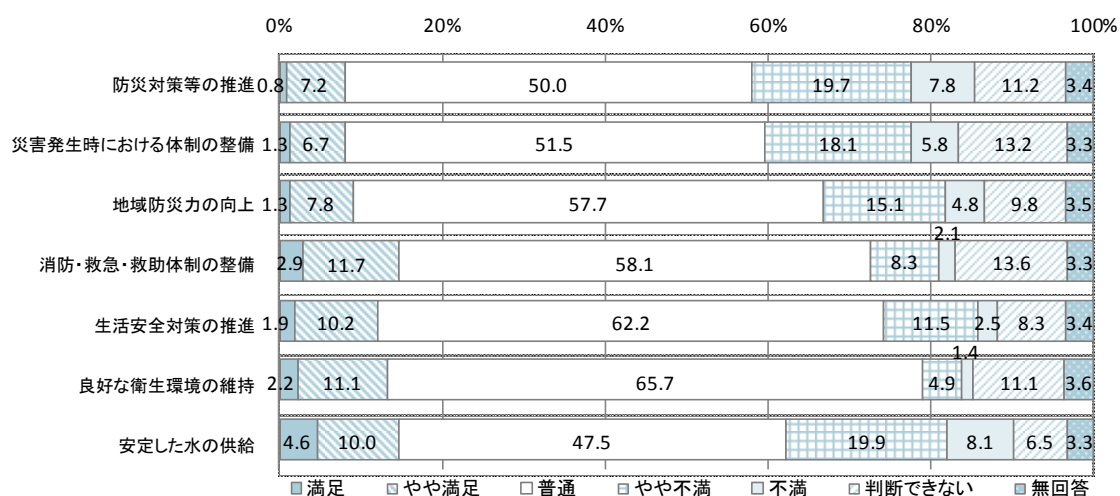
- 「健康・福祉」に関する施策のうち、『重要である』（「重要」+「やや重要」）と考えられている施策の上位 3 項目は、「医療体制の整備」（67.3%）、「子育て環境の充実と整備」（66.4%）、「高齢者福祉の充実」（61.3%）である。
- 「出会いからの環境整備」（43.0%）及び「地域福祉の促進」（38.5%）では、『重要である』（「重要」+「やや重要」）と考えている人が半数を下回っている。



(2)安全・安心に関する施策

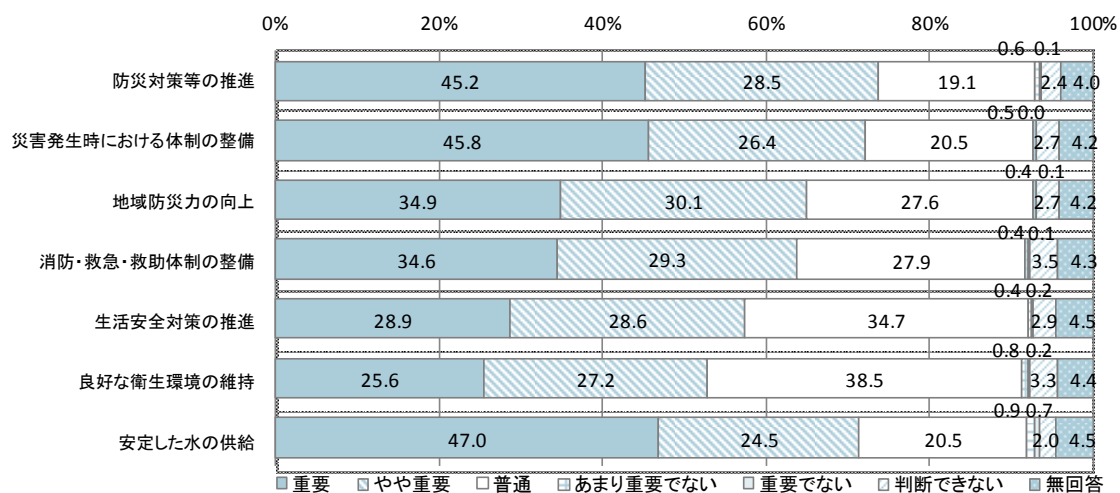
<満足度>

- 「安全・安心」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が4割半ば以上を占めている。
- 「判断できない」は「消防・救急・救助体制の整備」で13.6%と最も高い。
- 『満足している』（「満足」+「やや満足」）と評価の高い施策の上位3項目は、「消防・救急・救助体制の整備」及び「安定した水の供給」（同率14.6%）、「良好な衛生環境の維持」（13.3%）である。
- 一方で、『不満である』（「不満」+「やや不満」）と評価の低い施策の上位3項目は、「安定した水の供給」（28.0%）、「防災対策等の推進」（27.5%）、「災害発生時における体制の整備」（23.9%）である。



<重要度>

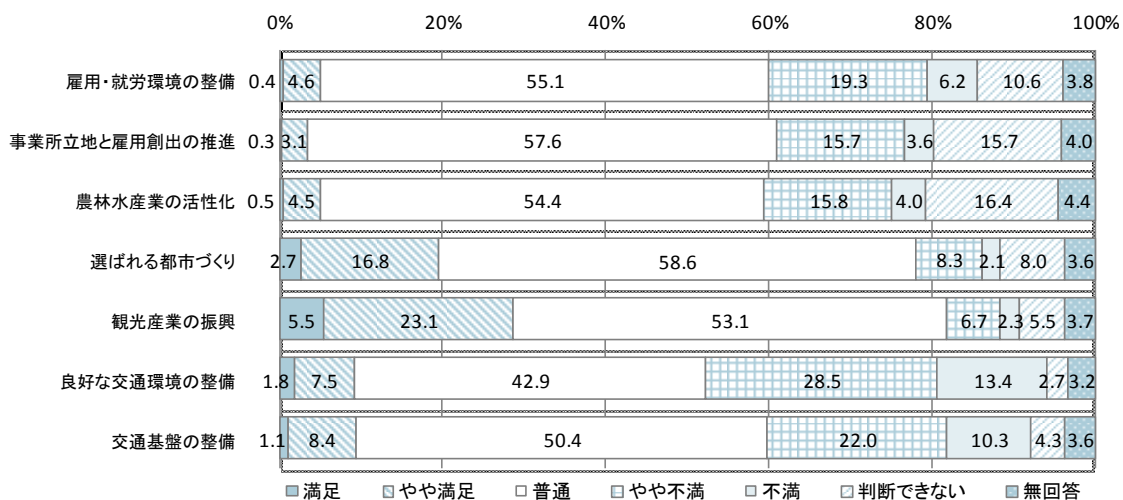
- 「安全・安心」に関する施策のうち、『重要である』（「重要」+「やや重要」）と考えられている施策の上位3項目は、「防災対策等の推進」（73.7%）、「災害発生時における体制の整備」（72.2%）、「安定した水の供給」（71.5%）である。
- また、全ての項目で、『重要である』（「重要」+「やや重要」）と考えている人が過半数を占めている。



(3) 産業・交流に関する施策

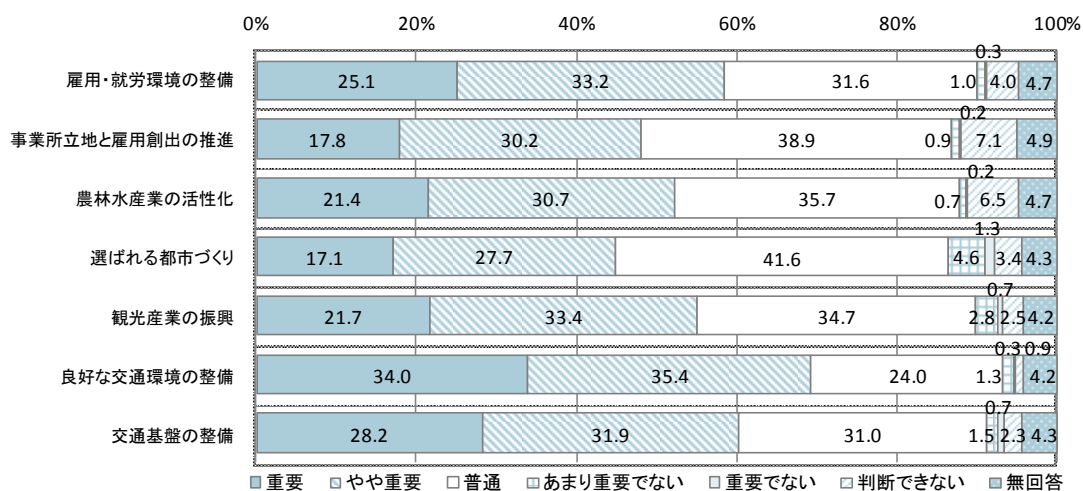
<満足度>

- 「産業・交流」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が 4 割から 6 割弱を占めている。
- 「判断できない」は「農林水産業の活性化」で 16.4%と最も高い。
- 『満足している』（「満足」+「やや満足」）と評価の高い施策の上位 3 項目は、「観光産業の振興」（28.6%）、「選ばれる都市づくり」（19.5%）、「交通基盤の整備」（9.5%）が続いている。
- 一方で、『不満である』（「不満」+「やや不満」）と評価の低い施策の上位 3 項目は、「良好な交通環境の整備」（41.9%）、「交通基盤の整備」（32.3%）、「雇用・就労環境の整備」（25.5%）である。



<重要度>

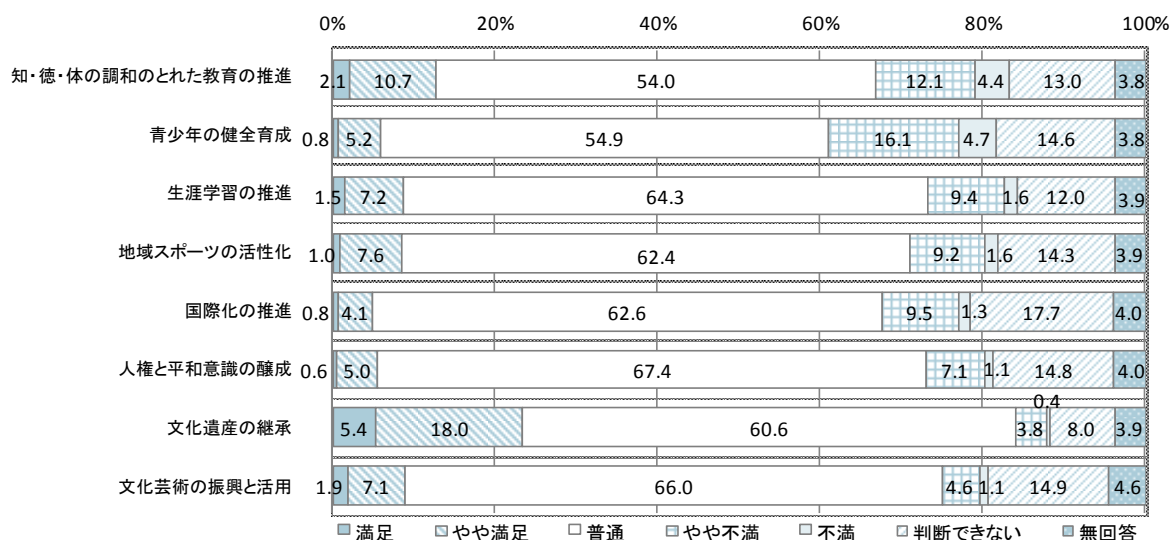
- 「産業・交流」に関する施策のうち、『重要である』（「重要」+「やや重要」）と考えられている施策の上位 3 項目は、「良好な交通環境の整備」（69.4%）、「交通基盤の整備」（60.1%）、「雇用・就労環境の整備」（58.3%）である。
- 「事業所立地と雇用創出の推進」（48.0%）及び「選ばれる都市づくり」（44.8%）では、『重要である』（「重要」+「やや重要」）と考えている人が 4 割以上となっている。



(4)教育・文化に関する施策

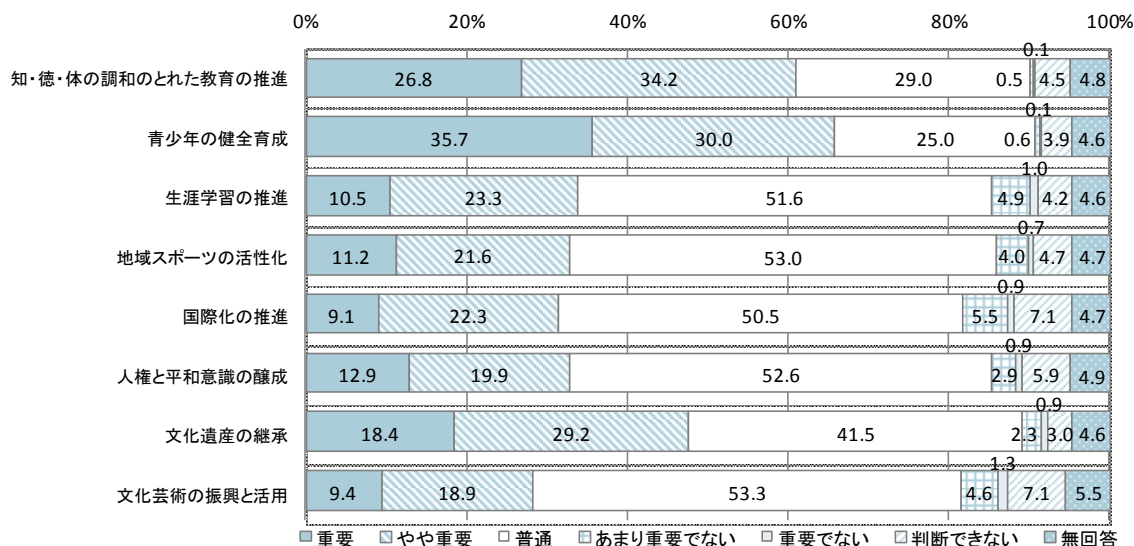
<満足度>

- 「教育・文化」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が 5 割半ば以上となっている。
- 「判断できない」は「国際化の推進」で 17.7%と最も高い。
- 『満足している』（「満足」+「やや満足」）と評価の高い施策の上位 3 項目は、「文化遺産の継承」（23.4%）、「知・徳・体の調和のとれた教育の推進」（12.8%）、「文化芸術の振興と活用」（9.0%）が続いている。
- 一方で、『不満である』（「不満」+「やや不満」）と評価の低い施策の上位 3 項目は、「青少年の健全育成」（20.8%）、「知・徳・体の調和のとれた教育の推進」（16.5%）、「生涯学習の推進」（11.0%）である。



<重要度>

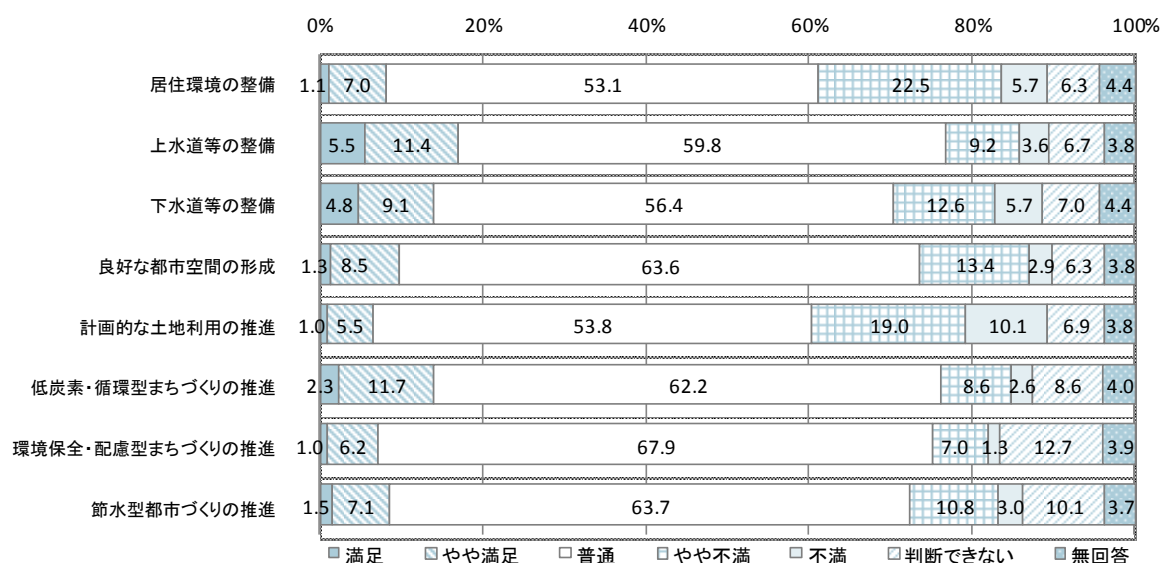
- 「教育・文化」に関する施策のうち、『重要である』（「重要」+「やや重要」）と考えられている施策の上位 3 項目は、「青少年の健全育成」（65.7%）及び「知・徳・体の調和のとれた教育の推進」（61.0%）がやや突出し、続いて「文化遺産の継承」（47.6%）となっている。
- 上位 3 項目以外の施策については、『重要である』（「重要」+「やや重要」）と考えている人が 3 割台以下にとどまっている。



(5) 環境・都市に関する施策

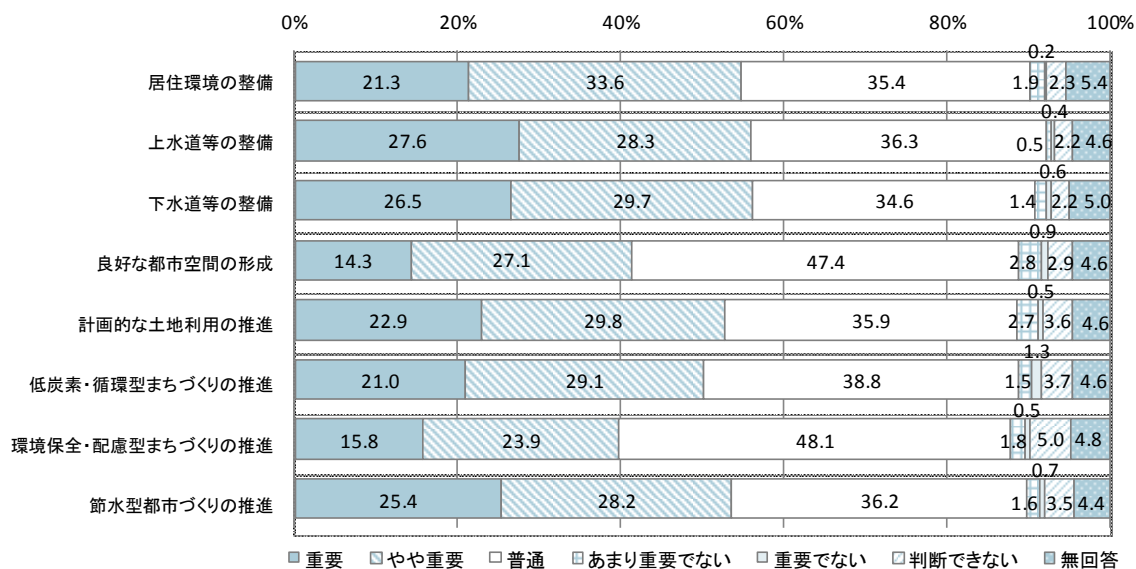
<満足度>

- 「環境・都市」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が半数を超えている。
- 「判断できない」は「環境保全・配慮型まちづくりの推進」で12.7%と最も高い。
- 『満足している』（「満足」+「やや満足」）と評価の高い施策の上位3項目は、「上水道等の整備」（16.9%）、「低炭素・循環型まちづくりの推進」（14.0%）、「下水道等の整備」（13.9%）である。
- 一方で、『不満である』（「不満」+「やや不満」）と評価の低い施策の上位3項目は、「計画的な土地利用の推進」（29.1%）、「居住環境の整備」（28.2%）、「下水道等の整備」（18.3%）である。



<重要度>

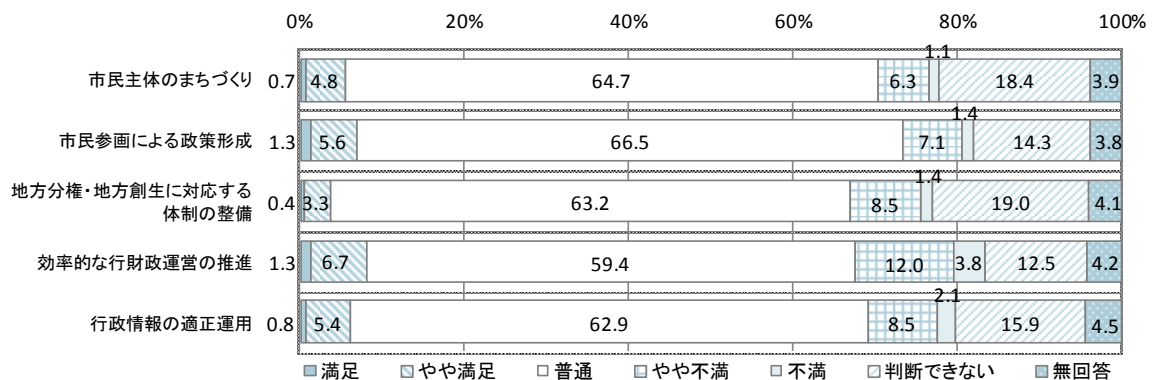
- 「環境・都市」に関する施策のうち、『重要である』（「重要」+「やや重要」）と考えられている施策の上位3項目は、「下水道等の整備」（56.2%）、「上水道等の整備」（55.9%）、「居住環境の整備」（54.9%）である。
- 「良好な都市空間の形成」（41.4%）及び「環境保全・配慮型まちづくりの推進」（39.7%）では、『重要である』（「重要」+「やや重要」）と考えている人が半数を下回っている。



(6) 自治・行政に関する施策

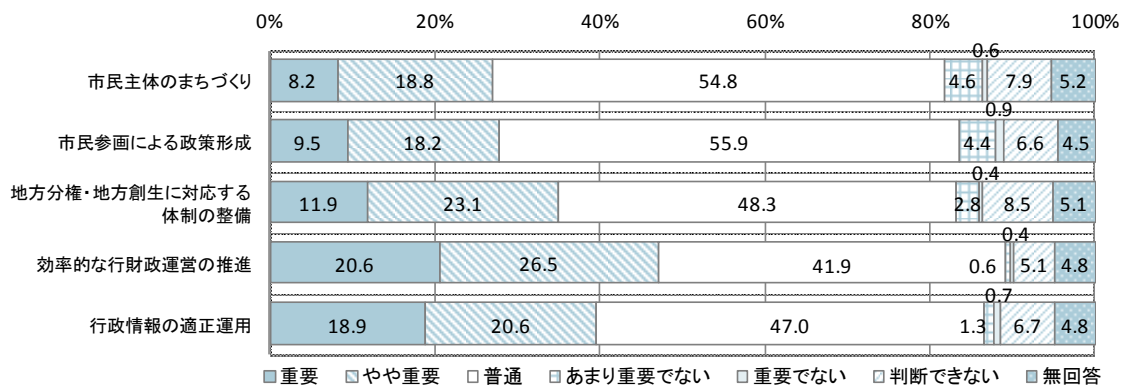
<満足度>

- 「自治・行政」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が半数以上を占めている。
- 「判断できない」は「地方分権・地方創生に対応する体制の整備」で19.0%と最も高い。
- 『満足している』（「満足」+「やや満足」）と評価の高い施策の上位3項目は、「効率的な行財政運営の推進」（8.0%）、「市民参画による政策形成」（6.9%）、「行政情報の適正運用」（6.2%）が続いている。
- 一方で、『不満である』（「不満」+「やや不満」）と評価の低い施策の上位3項目は、「効率的な行財政運営の推進」（15.8%）がやや高く、「行政情報の適正運用」（10.6%）、「地方分権・地方創生に対応する体制の整備」（9.9%）と続いている。



<重要度>

- 「自治・行政」に関する施策のうち、『重要である』（「重要」+「やや重要」）と考えられている施策の上位3項目は、「効率的な行財政運営の推進」（47.1%）、「行政情報の適正運用」（39.5%）、「地方分権・地方創生に対応する体制の整備」（35.0%）である。
- また、全ての施策で、『重要である』（「重要」+「やや重要」）と考えている人が半数を下回っている。



Ⅲ 調査分析

1. 満足度・重要度

本章では、第6次松山市総合計画の施策ごとの満足度・重要度において、回答選択肢1（不満、重要でない）から回答選択肢5（満足、重要）まで、それぞれ1点から5点を与え、加重平均を算出した。なお、回答選択肢6「判断できない」及び「不明・無回答」のサンプルは集計対象から除外している。なお、得点については小数点第3位を四捨五入しているため、同じ値で表示されていても順位が異なる場合がある。

(1) 本市が実施している施策ごとの評価

① 全体集計

<満足度> 全項目平均得点【H30年度】2.90 【H29年度】2.87 【H28年度】2.90

**得点が普通（3.00）を下回り、比較的不満のある施策が多い（43項目中33項目）。
分野ごとの平均では、【教育・文化】分野が高く、【産業・交流】分野が低くなっている。**

- ・満足度得点についてみると、松山市で実施している施策全43項目のうち、3.00（普通）以上のプラス評価の項目は10項目、3.00未満のマイナス評価の項目は33項目となっている。
- ・得点は、最高3.27から最低2.53の範囲（得点差0.74）に分布しており、全項目の平均得点は2.90と、3.00（普通）を下回りマイナス評価となっている。
- ・満足度の高い施策は、上位から、1位「文化遺産の継承(④-7)」(3.27)、2位「観光産業の振興(③-5)」(3.25)、3位「選ばれる都市づくり(③-4)」(3.11)、4位「良好な衛生環境の維持(②-6)」(3.09)、5位「健康づくりの推進(①-6)」(3.09)となっている。
- ・満足度の低い施策は、下位から、43位「良好な交通環境の整備(③-6)」(2.53)、42位「計画的な土地利用の推進(⑤-5)」(2.64)、41位「交通基盤の整備(③-7)」(2.65)、40位「防災対策等の推進(②-1)」(2.69)、39位「雇用・就労環境の整備(③-1)」(2.69)となっている。

<重要度> 全項目平均得点【H30年度】3.77 【H29年度】3.76 【H28年度】3.80

**全項目で得点が普通（3.00）を上回り、全ての施策が重要視されている。
分野ごとの平均では、【安全・安心】分野が高く、【自治・行政】分野が低くなっている。**

- ・重要度得点についてみると、松山市で実施している施策全43項目全てが3.00（普通）以上であり、全ての項目が重要であると評価されている。そのうち、4.00（やや重要）以上の項目は、9項目である。
- ・得点は、最高4.26から最低3.34の範囲（得点差0.92）に分布しており、全項目の平均得点は、3.77となっている。
- ・重要度の高い施策は、上位から、1位「防災対策等の推進(②-1)」(4.26)、2位「災害発生時における体制の整備(②-2)」(4.26)、3位「安定した水の供給(②-7)」(4.24)、4位「子育て環境の充実と整備(①-1)」(4.14)、5位「青少年の健全育成(④-2)」(4.10)となっている。

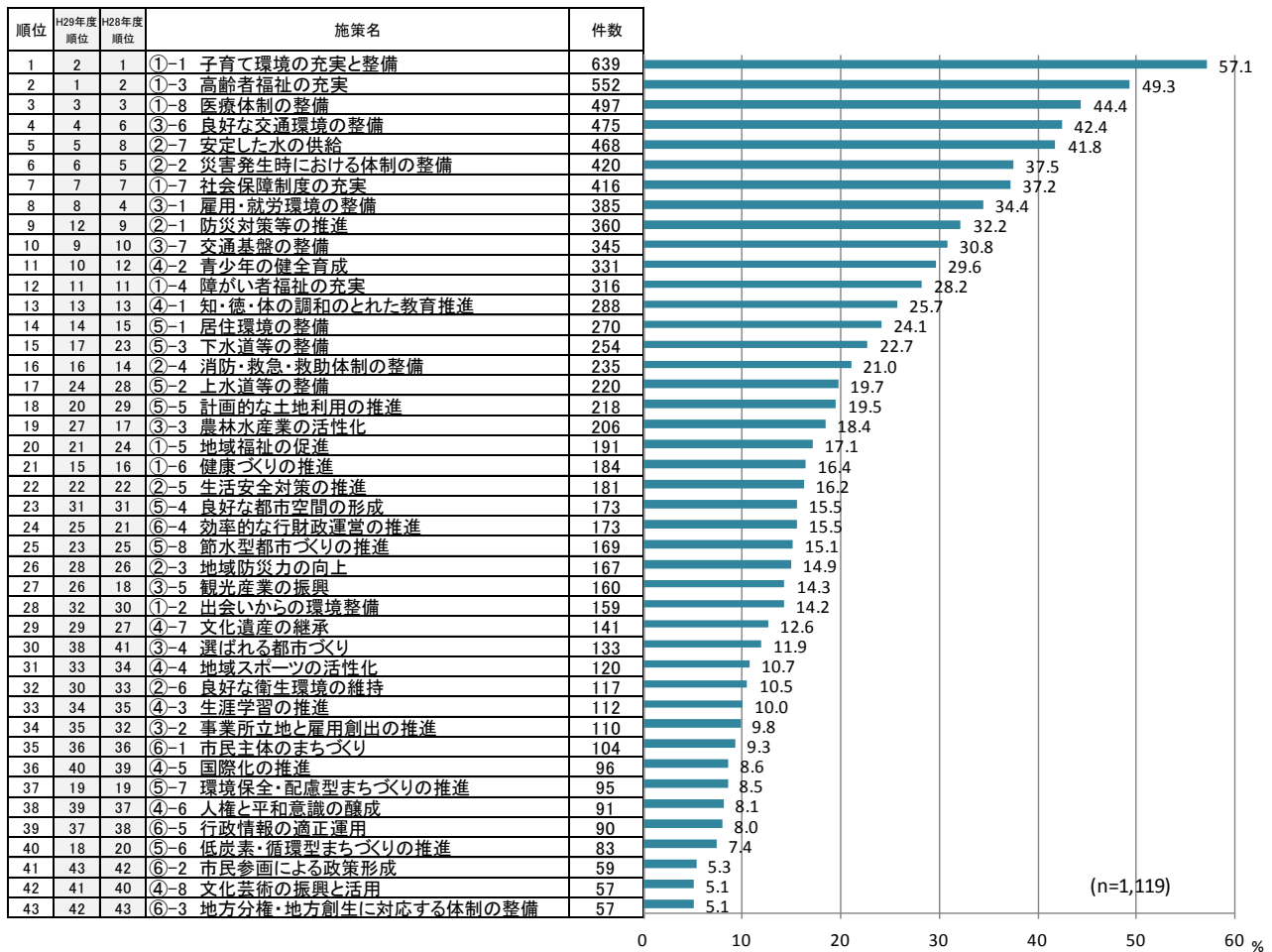
施策別満足度・重要度一覧表（分野別平均）

大項目	施策名	満足度(H30年度)		満足度(H29年度)		満足度(H28年度)		重要度(H30年度)		重要度(H29年度)		重要度(H28年度)	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
① 【健康・福祉】	1 子育て環境の充実と整備	25	2.89	23	2.88	28	2.84	4	4.14	4	4.13	4	4.15
	2 出会いからの環境整備	31	2.82	32	2.78	37	2.74	33	3.55	28	3.68	32	3.59
	3 高齢者福祉の充実	29	2.84	33	2.77	30	2.81	15	3.88	10	3.98	18	3.87
	4 障がい者福祉の充実	28	2.84	29	2.80	32	2.78	17	3.85	16	3.86	22	3.83
	5 地域福祉の促進	26	2.88	25	2.83	31	2.80	35	3.50	34	3.52	36	3.47
	6 健康づくりの推進	5	3.09	8	3.02	6	3.10	28	3.72	23	3.75	29	3.73
	7 社会保障制度の充実	35	2.76	36	2.70	36	2.75	21	3.82	17	3.83	16	3.89
	8 医療体制の整備	10	3.01	15	2.94	10	3.04	6	4.09	5	4.09	5	4.15
①【健康・福祉】平均			2.89		2.84		2.86		3.82		3.86		3.84
② 【安全・安心】	1 防災対策等の推進	40	2.69	34	2.77	29	2.84	1	4.26	3	4.17	3	4.24
	2 災害発生時における体制の整備	37	2.76	30	2.80	27	2.85	2	4.26	1	4.25	1	4.29
	3 地域防災力の向上	30	2.83	26	2.82	26	2.85	8	4.07	8	4.03	8	4.10
	4 消防・救急・救助体制の整備	7	3.06	9	3.01	7	3.09	9	4.06	9	4.00	6	4.10
	5 生活安全対策の推進	15	2.97	12	2.95	16	2.94	11	3.92	14	3.88	15	3.90
	6 良好な衛生環境の維持	4	3.09	3	3.10	8	3.07	18	3.84	15	3.87	13	3.95
	7 安定した水の供給	32	2.81	35	2.76	24	2.88	3	4.24	2	4.20	2	4.25
②【安全・安心】平均			2.89		2.89		2.93		4.09		4.06		4.12
③ 【産業・交流】	1 雇用・就労環境の整備	39	2.69	38	2.69	41	2.64	13	3.90	12	3.89	10	4.02
	2 事業所立地と雇用創出の推進	36	2.76	39	2.69	40	2.65	26	3.73	25	3.73	20	3.84
	3 農林水産業の活性化	34	2.77	28	2.80	33	2.78	20	3.82	30	3.66	26	3.76
	4 選ばれる都市づくり	3	3.11	5	3.07	5	3.13	31	3.59	38	3.41	35	3.49
	5 観光産業の振興	2	3.25	4	3.09	4	3.14	24	3.78	26	3.71	27	3.76
	6 良好な交通環境の整備	43	2.53	43	2.49	43	2.53	7	4.07	6	4.08	7	4.10
	7 交通基盤の整備	41	2.65	37	2.70	38	2.68	12	3.91	13	3.89	12	3.96
③【産業・交流】平均			2.82		2.79		2.79		3.83		3.77		3.85
④ 【教育・文化】	1 知・徳・体の調和のとれた教育の推進	20	2.93	27	2.81	25	2.87	10	3.96	11	3.94	11	4.00
	2 青少年の健全育成	33	2.77	40	2.68	34	2.77	5	4.10	7	4.04	9	4.08
	3 生涯学習の推進	13	2.97	20	2.91	13	2.99	39	3.41	36	3.45	39	3.40
	4 地域スポーツの活性化	16	2.97	13	2.94	15	2.94	38	3.43	37	3.42	38	3.41
	5 国際化の推進	22	2.92	22	2.91	20	2.91	40	3.38	41	3.35	41	3.38
	6 人権と平和意識の醸成	17	2.96	16	2.94	19	2.92	37	3.46	35	3.50	34	3.49
	7 文化遺産の継承	1	3.27	1	3.31	1	3.32	29	3.67	27	3.70	24	3.81
	8 文化芸術の振興と活用	8	3.05	7	3.05	9	3.05	42	3.35	40	3.36	40	3.40
④【教育・文化】平均			2.98		2.94		2.97		3.60		3.60		3.62
⑤ 【環境・都市】	1 居住環境の整備	38	2.72	42	2.60	39	2.67	22	3.80	22	3.76	25	3.80
	2 上水道等の整備	6	3.07	6	3.06	3	3.18	14	3.88	20	3.79	14	3.90
	3 下水道等の整備	18	2.94	18	2.93	11	3.02	16	3.86	21	3.79	17	3.88
	4 良好な都市空間の形成	23	2.91	24	2.85	21	2.91	34	3.55	33	3.58	33	3.56
	5 計画的な土地利用の推進	42	2.64	41	2.63	42	2.62	23	3.78	29	3.67	30	3.70
	6 低炭素・循環型まちづくりの推進	9	3.03	21	2.91	22	2.89	27	3.73	32	3.62	31	3.69
	7 環境保全・配慮型まちづくりの推進	11	2.98	2	3.14	2	3.19	32	3.58	19	3.80	21	3.84
	8 節水型都市づくりの推進	21	2.92	16	2.94	12	3.00	19	3.82	18	3.83	19	3.87
⑤【環境・都市】平均			2.90		2.88		2.94		3.75		3.73		3.78
⑥ 【自治・行政】	1 市民主体のまちづくり	14	2.97	14	2.94	17	2.93	43	3.34	43	3.23	43	3.30
	2 市民参画による政策形成	12	2.98	10	2.96	14	2.98	41	3.35	42	3.31	42	3.34
	3 地方分権・地方創生に対応する体制の整備	24	2.91	11	2.95	18	2.92	36	3.50	39	3.39	37	3.44
	4 効率的な行政運営の推進	27	2.88	31	2.78	35	2.76	25	3.73	24	3.74	23	3.83
	5 行政情報の適正運用	19	2.93	19	2.91	23	2.89	30	3.63	31	3.65	28	3.74
⑥【自治・行政】平均			2.93		2.91		2.90		3.51		3.46		3.53
全体平均			2.90		2.87		2.90		3.77		3.76		3.80

2. 施策の優先度について

松山市の実施している施策のうち、市民が優先的に取り組むべきだと思う上位 10 位までの施策は、1 位「子育て環境の充実と整備(①-1)」が 57.1%で、以下 2 位「高齢者福祉の充実(①-3)」(49.3%)、3 位「医療体制の整備(①-8)」(44.4%)、4 位「良好な交通環境の整備(③-6)」(42.4%)、5 位「安定した水の供給(②-7)」(41.8%)、6 位「災害発生時における体制の整備(②-2)」(37.5%)、7 位「社会保障制度の充実(①-7)」(37.2%)、8 位「雇用・就労環境の整備(③-1)」(34.4%)、9 位「防災対策等の推進(②-1)」(32.2%)、10 位「交通基盤の整備(③-7)」(30.8%)の順となった。

施策の優先度ランキング

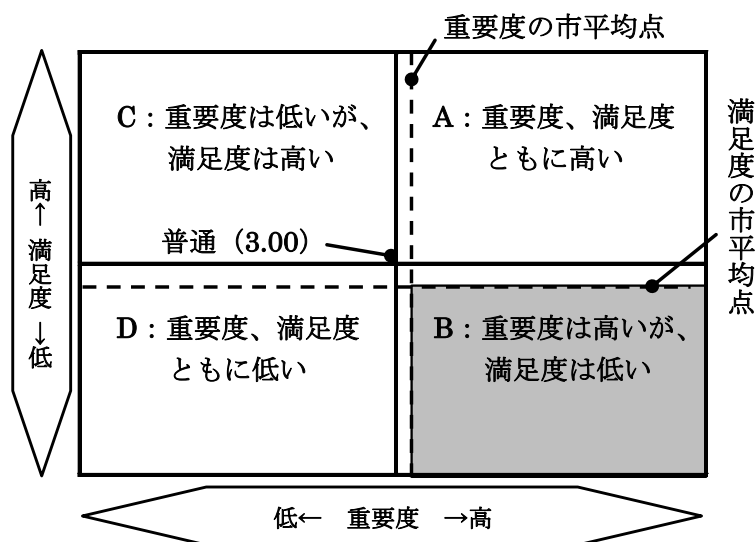


3. 重要度及び満足度、優先度の関係

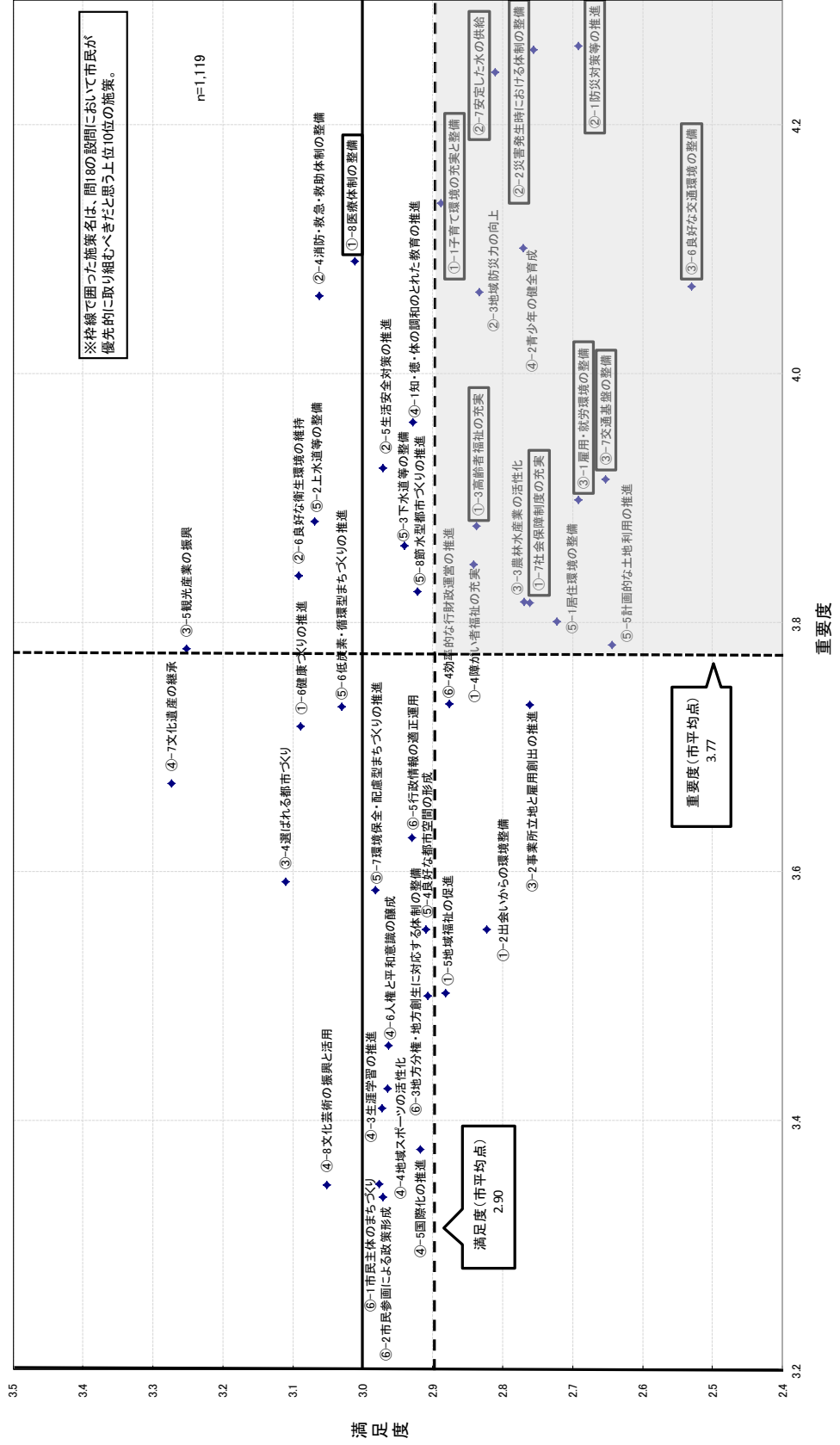
下図のとおり、第6次松山市総合計画 43 施策ごとの満足度と重要度の評価は、「普通」(3.00)を基準に、「A：重要度、満足度ともに高い」、「B：重要度は高いが、満足度は低い」、「C：重要度は低いが、満足度は高い」、「D：重要度、満足度ともに低い」に整理できる。

市民は、この結果のうち、特に「B：重要度は高いが、満足度は低い」の領域に属し、かつ優先度ランキングの上位に位置する施策を、これまでの市の取り組み状況から重要と判断しながらも、現状に対する満足度が低く、今後優先的に取り組むべき施策ととらえていると考えられる。

こうした施策に該当する、重要度が平均点(3.77)以上かつ満足度が平均点(2.90)以下の施策としては、「防災対策等の推進(②-1)」、「災害発生時における体制の整備(②-2)」、「安定した水の供給(②-7)」、「子育て環境の充実と整備(①-1)」、「良好な交通環境の整備(③-6)」、「交通基盤の整備(③-7)」、「雇用・就労環境の整備(③-1)」、「高齢者福祉の充実(①-3)」、「社会保障制度の充実(①-7)」が挙げられる。



市民意識調査における各施策の満足度・重要度の分布と市民優先度の関係



平成 30 年度 松山市 市民意識調査 報告書（概要版）

発 行：平成 31 年 3 月

編 集：松山市総合政策部企画戦略課

所在地：〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目 7-2

電 話：(089)948-6213 F A X：(089)934-1804

電子メール：kikaku@city.matsuyama.ehime.jp